

平成28年度 土曜日の教育支援活動一覧

「学ぶ力」学習支援型：4市2町10教室 体制構築型：3市1町29教室

市町名	教室数	活 動 名	主な実施場所	「学ぶ力」 学習支援型	体制 構築型	委託	委託団体名
彦根市	1	土曜教室「てみる」	中央中学校	○		○	中央中学校区 支援地域協議会
甲賀市	10	水口中央公民館 地域で創る 土曜日「夢の学習」	水口中央公民館		○		
		水口中央公民館 地域で創る 土曜日「夢の学習」	水口中央公民館		○		
		土山中央公民館 親子ふれあい講座	土山中央公民館		○		
		土山中央公民館 子ども公民館講座	土山中央公民館		○		
		KOKA楽こども公民館「甲賀★忍者隊」	かふか生涯学習館		○		
		KOKA楽こども公民館「こども天体クラブ」	かふか生涯学習館		○		
		甲南公民館 親子・家族のわくわく講座	甲南公民館		○		
		甲南公民館 子ども体験講座	甲南公民館		○		
		信楽中央公民館 親子食育講座「野菜の収穫と料理教室」	信楽中央公民館		○		
		信楽中央公民館 遊学舎「野鳥のお家をつくろう」	信楽中央公民館		○		
野洲市	1	篠原地域子ども教室 しのっ子・ジュニアオーケストラ	コミュニティセンターしのはら	○		○	野洲市 地域教育協議会
湖南市	9	いしべっ子学習教室	石部小学校・石部まちづくりセンター	○			
		みなみっ子土曜講座	石部南小学校・石部南小学校区内各施設		○		
		さんさん教室	夏見公民館・柑子袋まちづくりセンター		○		
		ひがしっこ教室	三雲児童館・三雲まちづくりセンター		○		
		菩提寺小土曜日教室	菩提寺小学校・菩提寺まちづくりセンター		○		
		あすなろわくわく教室	菩提寺北小学校・菩提寺まちづくりセンター		○		
		岩根小土曜教室	岩根まちづくりセンター	○			
		しもしょう土曜教室	下田小学校		○		
		水戸小学ぶかアップ！教室	水戸小学校・水戸まちづくりセンター	○			
東近江市	9	蒲生マックスクラブ そろばんクラブ	蒲生コミュニティセンター	○			
		蒲生マックスクラブ あかねジュニアバンド	蒲生コミュニティセンター		○		
		蒲生マックスクラブ ITキッズクラブ	蒲生コミュニティセンター		○		
		蒲生マックスクラブ 陶芸クラブ	蒲生コミュニティセンター		○		
		蒲生マックスクラブ KIDS FLOWER	蒲生コミュニティセンター		○	○	蒲生地区 地域教育協議会
		蒲生マックスクラブ 蒲生野太鼓わらべ組	蒲生コミュニティセンター	○			
		蒲生マックスクラブ マックスダンス(初級)	蒲生コミュニティセンター		○		
		蒲生マックスクラブ マックスダンス(上級)	蒲生コミュニティセンター		○		
		蒲生マックスクラブ 茶道クラブ	蒲生コミュニティセンター		○		
竜王町	8	書道クラブ	竜王町公民館	○			
		学力アップ教室	竜王町公民館	○			
		和太鼓クラブ	竜王町公民館		○		
		チャレンジクラブ	竜王町公民館		○		
		宇宙科学クラブ	竜王町公民館		○		
		絵画クラブ	竜王町公民館		○		
		料理クラブ	竜王町公民館		○		
		吹奏楽教室	竜王町公民館		○		
多賀町	1	土曜講座(サタスタ)	あけぼのパーク多賀	○		○	株式会社ケイ・エム・ ジーコーポレーション
計	39			10	29		

彦根市における土曜日の教育支援の取組（「学ぶ力」学習支援型）

持続発展教育(E S D)持続可能な社会・次代を担う彦根の子どもを地域の人々で守り育てます。

■目指す姿

○地域の多様な経験や技能を持つ人材・NPO、企業等の参画により、土曜日に体系的・継続的なプログラムを計画・実施する取組を支援し、教育支援体制の構築を図ることにより、子どもたちにとってより豊かで有意義な土曜日を実現する。

■本年度の活動

[学ぶ力を育てる土曜学習支援]

土曜学習支援：中央中学校で実施する。学び育ち教室 Learning Links の発展としての位置付け。

○「土曜教室 てみる」— 子どもの「〇〇てみる」を応援する

・彦根市立中央中学校における土曜教室を開講。大学生や地域社会人らによる学習補助やコミュニケーションを通じて、子どもたちの学びへの動機付け（来てみる・やってみる・失敗してみる）や将来のロールモデルを見つけることをねらいとする。

○活動内容

・開講日：第1および第3土曜日の月2回（プログラムを試行しながら内容の充実を図る。）

6月4日(土)よりスタートする。20名1クラスで、子ども2人に推進員等が1名配置。

授業の最初にはプリント学習で気持ちの準備を図る。プリントの後、各自の宿題・課題・ワークブック（学校支給のものが良い）を行う。

・時間割の例：①プリント学習（漢字検定／数学検定）と答え合わせ（20分）②学習時間（40分）

③休憩（10分）④学習時間（40分）⑤サポーターとの交流活動（10分）

※クラス終了後、サポーター間の振り返り（30分）

○実行委員会の開催（年2回）

・構成委員：16名（各中学校管理職、地域コーディネーター、土曜学習コーディネーター、彦根PTA連絡協議会会長）

・事務局：生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹

・7月12日(火)事業説明・実践交流 ・2月9日(木)研修会・次年度計画

○学校訪問 11月 中央中学校訪問 土曜学習支援事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認

■本年度の成果

○個別指導をベースとしたきめ細かな指導ができた。それぞれの生徒のニーズ、スピードに応じた学習活動が展開できた。

○学習支援者の真摯な指導姿勢により、充実した学習支援活動が継続できた。

○土曜学習コーディネーターの連絡・調整により計画的な取組みが展開できた。

■今後の課題

○事業を支える支援ボランティアの確保（学習支援に係る学生ボランティア等）、人材バンクの整備

■その他

○彦根市では、ESD（持続発展教育）教育、持続可能な社会を担う人づくりを進めている。さらに「地域とともにある学校」の創造にも力を入れる。



【土曜教室てみる】

■ 土曜学習支援「土曜教室 てみる」

■ 彦根市	
■ 活動名	土曜教室「てみる」 （「学ぶ力」学習支援型）
年間開催日数	19 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	29 人
子どもの平均参加人数	12 人

■ 活動の概要

子どもたちの土曜日の教育環境の充実に取り組む「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業」として、彦根市内中学校に先駆けて昨年9月から土曜学習支援「土曜教室 てみる」をスタートした。この教室は、学校の教員ではなく、土曜教室コーディネーターと地域の大学生や社会人による教育推進員が運営している。子どもたちへの学習補助や推進員との対話を通じて、学びへの動機付け（来てみる・やってみる・失敗して学ぶ）や将来になりたい姿を見つけることなどをねらいとしている。

- 目 的
- ・学習習慣の定着を図る。
 - ・基礎学力を補充する。
 - ・支援員との対話を通してコミュニケーション能力を身につける。
 - ・将来になりたい自分を見つける。

○場 所 中央中学校

○期 間 平成28年6月～平成29年3月

- 学習内容
- ・100マス計算など、学習へのウォームアップを行う。
 - ・各自の学習課題に取り組む。
 - ・土曜教室で準備している学習教材に取り組む。

○参加人数（前期）

回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回
参加人数	13人	12人	8人	11人	12人	11人	10人	15人	12人	12人

■ 特徴的な活動内容

学習補助による基礎学力の定着と対話によるコミュニケーション能力・社会性の向上を目的に、授業教材・ワーク、プリントを使った自主学習をベースにわからない箇所の指導をしている。

■ 実施に当たっての工夫

多くの子どもに参加機会を与えるために、前期10回（6～11月）、後期9回（12～3月）に分けて参加生徒を募集した。

学習面では、教室の最初に100マス計算や漢字検定プリントを行い、学びへのウォームアップをしている。また生徒の個別ファイルをつくり、教室で使ったプリントなどをその場でファイルに綴じ、自身の学習記録として保存している。

一日の学習計画として、プリント⇒宿題・ワーク40分⇒休憩10分⇒宿題・ワーク40分⇒対話としているが、子どものコンディションに合わせて時間配分・学習内容を決定している。

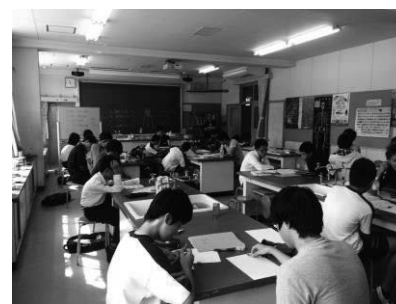
学校での教員と生徒の関係ではなく、ナナメの関係で接することを大切にしている。子どもと推進員との人間関係を築くために双方が名札を着用する。名札には「好きなこと、はまっていること」などを記載し互いを知るツールとして使っている。関係性が浅い時点では、子どものことを質問するのではなく、先に推進員が自己開示するなど安心感を与えることが大切である。学習指導では「～しなさい」という強制はせず、「～してみる？」という声かけで子どもの自主性を促すことに努めている。

■ 事業の成果

定員を20名としているが、16名の参加希望があった。ただ上記のとおり、実際の出席者は平均12名程度であり、10名余りの推進員とほぼマンツーマンでの学習指導となった。場面緘黙など個々に課題を抱える生徒もいて、子どもたちにとっては、大変充実した学習の場となった。また、家庭学習がなかなか定着しない生徒も複数名おり、土曜教室に参加することで、一定時間集中して学習することができた。

■ 事業実施上の課題

地域人材を活用して推進員を集めるのは大変であり、コーディネーターのつながりで集めているが、その人員確保が大変である。子どもへの学習指導を考えると、推進員の人数も大切であるが、あわせて指導力を充実させることも必要である。



【土曜教室の授業風景1】



【土曜教室の授業風景2】

■ 甲賀市における土曜日の教育支援の取組 (体制構築型)

■ 目指す姿

体験活動を通してさまざまな人、もの、知識や技術と出会い、その積み重ねにより子どもの成長を育み、親子の絆を深める。子どもと地域との交流、連携、学習意欲の向上、仲間づくりを図り、学習を生かす機会を提供することによって、社会還元を促す。

■ 本年度の活動

地域の多様な経験や技能を持つ人材・高等学校・企業等の協力を得ながら、土曜日、休日に各地域の公民館において、親子教室や子ども教室を開催した。

担当職員を対象に、企画から事業評価まで、事業実施に向けて研修を行った。

■ 本年度の成果

子どもたちの安全・安心な居場所づくりができた。

地域の方々の参画を得て、地域交流が図れた。

■ 今後の課題

広報紙や学校を通じてチラシを配付しているが、参加者が少ない教室もあり、チラシ作成の工夫、啓発活動の工夫が必要である。

また、子どもたちにとってより豊かな魅力ある事業の展開が必要である。

さらに、地域の人材発掘、人材育成にも力を入れたい。

■ その他

市内公民館合同で、毎年、「夏休み工場見学」を実施している。子どもたちが市内の工場や施設を見学し、企業を知ることによって将来への幅を少しでも広げてもらうことができ、また、地域を学ぶことで郷土愛を育む機会となるよう企画した。

また、11月3日に、企業や高等学校、シルバー人材センター等の協力を得て、いろいろな体験コーナーを設け「まなびの体験広場」を開催した。

甲賀市URL : <http://www.city.koka.lg.jp/>



【まなびの体験広場 2016 (平成 28 年 11 月 3 日開催)】

■ 地域で創る 土曜日「夢の学習」(親子対象)

■ 甲賀市	
■ 活動名	水口中央公民館 地域で創る 土曜日「夢の学習」 (体制構築型)
年間開催日数	45 日

コーディネーター数	2 人
土曜教育推進員数	50 人
子どもの平均参加人数	100 人

■ 活動の概要

体験活動を通してさまざまな人、もの、知識や技術と出会い、その積み重ねにより子どもの成長を育み、親子の絆を深める。

【主な活動内容】

英語でおしゃべり会、韓国語でおしゃべり会、親子囲碁教室、親子将棋教室、絵画教室、ハンドクラフト、ニュースポーツ、親子健康体操、空手、料理教室 等 全部で約30講座

■ 特徴的な活動内容

甲賀市内の小学1年生から6年生の子どもとその保護者(親子)を対象としている。

■ 実施に当たっての工夫

講師は、できるだけ地元の方をお願いするようにしている。

内容によっては子どもが講師となっているものもある。(親子将棋教室)

■ 事業の成果

各講座とも、楽しみながらもしっかりと学び、活動できている。実際にいろいろと体験する中で、よりよい感性が磨かれている。

保護者の方にとっては、普段の生活ではなかなか見られない子どもの様子や、自分が思ったより成長している我が子の姿を実感できる場ともなっているようである。

講師の方も、一度にたくさん子どもたちとふれあえる貴重な体験となっている。

■ 事業実施上の課題

学校を通じて講座のお知らせをして、たくさんの方が参加されているが、まだまだこの講座のことを知っておられない保護者もいらっしゃるようである。

ボランティアスタッフの人数がまだまだ足りない。もっとたくさんの方にかかわってもらう必要がある。



【みんなで楽しく体を動かそう！
(ニュースポーツ)】



【好きなように作れるからいいね！
(ハンドクラフト)】

■ 地域で創る 土曜日「夢の学習」(子ども対象)

■ 甲賀市	
■ 活動名	水口中央公民館 地域で創る 土曜日「夢の学習」 (体制構築型)
年間開催日数	45 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	10 人
子どもの平均参加人数	20 人

■ 活動の概要

体験活動を通して、さまざまな人、もの、知識や技術と出会い、その積み重ねにより子どもの成長を育み、親子の絆を深める。

【主な活動内容】

算数、国語、空手、読書活動、粘土の貯金箱 等 全部で約 40 講座

■ 特徴的な活動内容

甲賀市内の小学 1 年生から 6 年生の子どもを対象としている。

■ 実施に当たっての工夫

講師は、できるだけ地元の方をお願いするようにしている。

内容によっては子どもが講師となっているものもある。(けん玉教室)

夏休みの講座では、滋賀県が実施している出前講座も取り入れた。(滋賀県統計課・しが統計キッズクイズ、県立近代美術館・コラージュ)

■ 事業の成果

各講座とも、楽しみながらもしっかりと学び、活動できている。

実際にいろいろと体験する中で、よりよい感性が磨かれている。

講師の方も、一度にたくさん子どもたちとふれあえる貴重な体験となっている。

■ 事業実施上の課題

ボランティアスタッフの人数がまだまだ足りない。もっとたくさんの方にかかわってもらう必要がある。



【どんな形にしようかな? (粘土の貯金箱)】



【美術館の「博士」も来て楽しかったね!
(コラージュ)】

■ 親子の「知りたい」「学びたい」をお手伝い

■ 甲賀市	
■ 活動名	土山中央公民館 親子ふれあい講座 (体制構築型)
年間開催日数	5 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	8 人
子どもの平均参加人数	14 人

■ 活動の概要

親子で、力を合わせて「ものづくり」通して絆を深める。

■ 特徴的な活動内容

調理 (ピザづくり) 6 月 18 日 (10 名)
 自然体験 (カブト虫さがし) 7 月 23 日 (7 名)
 作品制作 (木工クラフト) イスづくり 8 月 20 日 (9 名)
 人権学習 (親子人権講座) 9 月 29 日 (30 名)
 学習 (くすりについて) 11 月 19 日 (中止)
 学習・調理 (英語でクッキング) 12 月 17 日 (8 名)

■ 実施に当たっての工夫

昨年度までは、作品制作を多く開催してきたが、今年度はできるだけ体験を多く取り入れた。また、体験を通した中で、地場産業や英語などの学習要素も多く取り入れた。子どもの数が減少する中、中学生にも対象を広げ、公民館を身近に感じてもらえれば幸いと考えている。

■ 事業の成果

参加者はどの事業についても大変楽しんでいた。講座だけではなく、普段から図書室や遊びにも来館され、気軽に立ち寄れる近所の公民館として役割は果たせていると感じる。市内の他の公民館とも連携し、よい講座を展開していきたい。

■ 事業実施上の課題

一度参加されると講座の雰囲気にも慣れ次の講座にも参加しやすくなるが、まずは第一歩を踏み出していただけるように周知の方法を考える必要がある。また近年の少子化やスポーツクラブへの参加等で参加される子どもが減少傾向にある。



【ピザづくり】



【カブト虫さがし】

■ あいの土っこ “きらねっ人” いきいき活動

■ 甲賀市	
■ 活動名	土山中央公民館 子ども公民館講座 （体制構築型）
年間開催日数	10 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	30 人
子どもの平均参加人数	21 人

■ 活動の概要

地域の大人が指導者・スタッフとなり、さまざまな体験活動を行っている。

■ 特徴的な活動内容

特産品や季節に応じたおやつづくり（いばらだんご、いちご大福）

作品制作（折り紙、紙飛行機、スライム、ペットボトル工作）

ふれあいあそび（おじゃみ、輪投げ、けん玉、カロム、積み木、布製オセロ、かるた）

■ 実施に当たっての工夫

ボランティアバンクに30人の登録があり、事業への参加はその都度登録者に案内し、協力を求めている。

また、保護者に送迎をしていただいている。子どもが参加しやすいように4つの公民館や町内の公共施設を巡回して開催実施している。文化祭や宿場まつりなど地域での事業にも協力して参加者が増えるようにしている。

■ 事業の成果

特に夏休みの「あそびのひろば」では、長期休暇中に友達と出会えて楽しく過ごしておられた。参加児童も多く、休日の受け入れとしてまだまだ必要であると考えている。

■ 事業実施上の課題

年々、参加者が減少傾向にあり、内容のマンネリ化も課題のひとつである。地域のヒト・モノを活かしながら、新しい体験活動（メニュー）を取り入れるなどの工夫が必要である。また、ボランティアが高齢化しており人数も減少傾向にあり、新しいボランティアの育成が必要である。



【折り紙（区民祭り）】



【スライム（あそびのひろば）】

■ 飛び出せ！ ちびっこ忍者たち（甲賀★忍者隊）

■ 甲賀市	
■ 活動名	KOKA楽こども公民館「甲賀★忍者隊」（体制構築型）
年間開催日数	7 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	3 人
子どもの平均参加人数	6 人

■ 活動の概要

野外活動やものづくりなどの様々な体験を通して子どもたちの創造性を育むとともに、グループ活動をすることで自主性や協調性を養う機会とする。

■ 特徴的な活動内容

デイキャンプ・・・市内キャンプ場で行う野外活動。空き缶を利用した炊飯やネイチャーゲームなどを行う。

旅研修・・・全員が協力してクイズを解いたり、チェックポイントを探したりしながら、あらかじめ設定された目的地を目指す。旅をする中で目的地の歴史や文化だけでなく、公共交通機関の乗り方や人との関わり方なども併せて学ぶ。

■ 実施に当たっての工夫

子どもたちに目的意識を持たせるとともに、協力することの重要性に気付かせるようなプログラムとなるよう工夫している。また、事業に関わるスタッフのモチベーションを上げるため、自らも楽しめるような内容を心がけている。

■ 事業の成果

スタッフや地域住民とも活発な交流が図られている。また、継続して受講している子どもは知識も深まり、リーダーシップも発揮しつつある。活動を通じて他校の子どもたちと積極的に関わろうとする姿も見られ、ほぼ全員が毎回参加していることから、活動を楽しみにしている様子が伺える。保護者からも当事業の活動に期待する声が多く聞かれ、スタッフもやりがいを感じながら事業に参加できている。

■ 事業実施上の課題

スタッフの就職や結婚、出産などにより、毎回の事業実施に必要な人員を確保することが困難となり、開催直前にプログラム内容の見直しを迫られるケースが増えつつある。事業の安定的な実施や安全確保の観点からも、早期に新たな人材を育成することが求められている。



【空き缶でご飯を炊こう！】



【竹でmy箸、myお椀づくり】

■ めざせ！ 天文はかせ（こども天文クラブ）

■ 甲賀市	
■ 活動名	KOKA楽こども公民館「こども天文クラブ」 (体制構築型)
年間開催日数	8 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	4 人
子どもの平均参加人数	23 人

■ 活動の概要

天文知識の向上と仲間づくりを目的とし、子どもたちの交流を図りながら併せて環境問題についても考える機会とする。

■ 特徴的な活動内容

天体観望・・・西日本最大級の屈折型天体望遠鏡を使い、太陽系内外の惑星・恒星の観望や季節の星座について学ぶ。

流星群観望・・・8月のペルセウス座流星群を親子や友達などと一緒に観望する。

市外研修・・・大津市科学館、名古屋市科学館のプラネタリウムや館内展示などを見学する。

クラフト工作・・・太陽系の惑星や月、人工衛星、星座早見盤などのペーパークラフトを作る。

■ 実施に当たっての工夫

当館で定期的（月1回）に開催している天体観望会にも将来スタッフとして協力いただけるよう、新たな人材育成の場としても位置付けている。また、市外研修など当施設外での活動を実施する場合は、2～3人を一組としたバディを組んだうえでグループ行動をさせるようにし、事故の未然防止を図るよう注意している。さらに、毎回天体に関するミニ知識を記載した出席カードを作成して参加者に配付、すべて参加した受講者にはささやかなプレゼントと表彰状を渡すなど、子どもたちの学習意欲を喚起するような工夫もしている。

■ 事業の成果

毎年多くの受講申込みがあり、定員超過により抽選を行う場合もあるなど、当館において最も人気の高い講座である。当講座は市内では当館のみで開催しており、受講者は学区内にとどまらず市内の広範囲に渡るため、多くの小中学校の児童・生徒の交流が図れる貴重な機会ともなっている。

■ 事業実施上の課題

天文現象は深夜から未明にかけて出現することが多いが、小中学生を対象とした事業であることから、観測に適した時間に開催することは困難であり、プログラムがマンネリ化する傾向がある。また、内容的に比較的高度な専門知識を要することから人材確保は困難を極めるが、今後も安定的に事業を実施していくためにも、早期に新たな指導者・スタッフなどの人材育成を図る必要があるものと考えている。市内や近隣の高校・大学のクラブ（天文同好会）などに呼びかけ、生徒や学生にスタッフとして参画いただくような方法も模索しているが、現実的には難しいのが実情である。



【大型天体望遠鏡での惑星観望】



【大津市科学館見学】

■ 親子・家族のわくわく講座

■ 甲賀市	
■ 活動名	甲南公民館 親子・家族のわくわく講座 (体制構築型)
年間開催日数	4 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	3 人
子どもの平均参加人数	26 人

■ 活動の概要

親子・家族で生活・自然体験を通じ、親子・家族の絆を深め、さらに参加者同士の交流を促し地域の絆を深める。また、公民館が実施する家庭教育支援に位置づける。

■ 特徴的な活動内容

プランターづくり
木の実クラフトワーク (図書館と合同)
米粉ガトーショコラづくり
料理

■ 実施に当たっての工夫

子どもの自主性、自立心を向上させるため、子どもが主体的に活動し、大人はサポート役で参加できるよう事業展開している。危険だから親が全てをするのではなく、子どもができること、親がしなければならないことを講師と事前に打ち合わせている。また子どもと保護者がいっしょに作業する楽しさを感じられるように、ある程度の自由度を持たせている。

■ 事業の成果

アンケート結果は満足度が高かった。「普段とは違う子どもの姿が見られた」や「親子で参加してよかった」などの声が聞かれ、また、事業継続を希望する意見が多数あった。木の実クラフトワークでは、自らの力だけで完成させたり不慣れな道具を懸命に扱う児童があったことから、体験活動を通じ主体性やチャレンジ精神の醸成につながったと思われる。また他機関との合同事業の可能性を広げたと考えられる。

■ 事業実施上の課題

親子関係がある程度成熟していると思われる親子・家庭の参加が大半であり、参加しづらい親子・家庭に対する家庭教育支援をどのように実施していくべきかが課題である。



【プランターづくり】



【木の実クラフトワーク】

子ども体験講座

■ 甲賀市	
■ 活動名	甲南公民館 子ども体験講座 (体制構築型)
年間開催日数	4 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	3 人
子どもの平均参加人数	24 人

■ 活動の概要

生活・社会体験を通じ、子どもが心身ともに健やかに成長していく上で大切なコミュニケーション能力や協調性を育む。また、公民館が実施する子ども教育支援に位置づける。

■ 特徴的な活動内容

科学
ものづくり
音楽祭

■ 実施に当たっての工夫

町内児童・生徒の手に行き渡るよう、学校と連携しチラシを配布している。講座内容について、夏休みの宿題に参考となるような科学講座での万華鏡づくり等を実施した。また、講師は当公民館の自主活動団体や高校の科学クラブ担任・生徒に依頼し、地域づくりに向けた人材育成の一面も持ち合わせている。

■ 事業の成果

科学講座で万華鏡を作り上げていく中で、個性を生かした作品をそれぞれが作れたと思われるし、創作意欲につながったと感じた。また、中高生対象事業としては、音楽活動（社会体験活動）を通じた社会教育という位置づけで、昨年に引き続き「こうか冬の音楽祭」を実施した。出演だけでなく音響照明のスタッフ補助としての参加もあり、職業体験を通じた「生きる力」を身につける機会となった。

■ 事業実施上の課題

限られた財源の中から講座を企画していく必要があることから、事業に携わっていただける市民を育成するのが急務である。生涯学習を通じたまちづくりという理念のもと、そのための政策として市民大学や講座があるという体系を、行政だけでなく市民に浸透させることが課題である。また、他公民館、他行政部局と効率よく連携できる部分を模索することが必要と感じる。



【科学講座 万華鏡づくり1】



【科学講座 万華鏡づくり2】

■ 遊陶里カレッジ

■ 甲賀市	
■ 活動名	信楽中央公民館 親子食育講座「野菜の収穫と料理教室」 (体制構築型)
年間開催日数	2 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	0 人
子どもの平均参加人数	10 人

■ 活動の概要

食に対する適切な判断力を養うことで健全な食生活をおくり心身の健康と豊かな人間性を育む。
食生活が自然の恩恵の上に成り立っており、食に関わる人々の様々な活動に支えられていることに感謝し理解を深める。
保護者に食育のあり方を学んでもらい、食事を通して親子のふれあいを楽しんでもらう。

■ 特徴的な活動内容

- ・収穫体験
にんじんの収穫
にんじんの自動洗浄見学
- ・料理教室と試食
地元で収穫された新鮮な野菜を使って親子料理教室
- ・食育講座
栄養士さんから「豆」製品についてのお話
地元営農組合から「野菜」についてのお話

■ 実施に当たっての工夫

地元の新鮮な野菜を使った献立とした。

■ 事業の成果

収穫体験では、普段できない収穫をし、出荷するための洗浄作業まで見学でき農業について楽しく学ぶことができた。
料理教室では、保護者が自分の子どもだけ気にかけるのではなく、みんなが気にかける親子のふれあいの時間が持てた。
おいしく出来上がり、好評であった。

■ 事業実施上の課題

日程の設定に苦慮する。



【にんじんを収穫】



【料理教室 5品完成!!】

■ 遊陶里カレッジ

■ 甲賀市	
■ 活動名 信楽中央公民館 遊学舎「野鳥のお家をつくろう」 (体制構築型)	
年間開催日数	1 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	2 人
子どもの平均参加人数	9 人

■ 活動の概要

子どもたちが巣箱を作り、近くの森などに設置して自然観察をしてもらう。

■ 特徴的な活動内容

巣箱づくり
取付けについてのお話

■ 実施に当たっての工夫

基本的には子どもだけの講座であるが、親子のふれあいの場として保護者の参加も可とした。
ただ組み立てるだけではなく、自然観察ができるように取付けについてのお話も取り入れた。

■ 事業の成果

いつもはやんちゃな子どもたちのようだが、目をキラキラとさせ作業に集中し、いつもと違う新たな一面が見られ物づくりの楽しさを感じてもらえた。

■ 事業実施上の課題

対象学年を小学3年生以上と設定したが、保護者同伴であれば1・2年生も対象とすればよかった。
参加費はワンコインで出来るものがないのか検討が必要。



【巣箱づくり】



【取付けについてのお話】

■ 野洲市における土曜日の教育支援の取組 （「学ぶ力」学習支援型）

■ 目指す姿

本市においては、『地域の子どもは地域で育てる』を合言葉に、地域の様々な分野で活躍する大人の教育力を結集して、子どもたちの週末における様々な体験活動や地域住民との交流活動等を推進し、子どもたちの健全な育成を図ることを目的として、事業を展開している。

■ 本年度の活動

・しのっ子ジュニアオーケストラ

滋賀県野洲市の小学生（3～6年生）で構成されている。楽器演奏で音楽する喜びが感じられればと、毎週土曜日（日曜日）の午前中『コミュニティセンターしのはら』で練習を行っている。

■ 本年度の成果

- ・継続的な練習や演奏活動を通し、何事にも挑戦する精神や忍耐力を育むことができた。
- ・活動を通して様々な人たちと接する機会が増え、子どもたちと地域住民との活発な交流ができた。
- ・発表会に出演して成功を重ねることで、子どもたちの何事にも挑戦するという意欲を高めることができた。

■ 今後の課題

- ・子どもたちの参加が少ない年もあり、オーケストラメンバーの確保が難しい。
- ・地域の行事等が重なると練習に参加するメンバーが少なくなり、練習が困難になるときがある。

■ その他

諮問機関は「野洲市地域教育協議会」である。委員は17名で、年に2回会議を実施し、運営について協議を行っている。



【収穫祭での発表】



【スプリングコンサート】

■ 音楽をととして、思いを伝える（しのっ子・ジュニアオーケストラ）

■ 野洲市	
■ 活動名	篠原地域子ども教室 しのっ子・ジュニアオーケストラ（「学ぶ力」学習支援型）
年間開催日数	76 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	2 人
子どもの平均参加人数	13 人

■ 活動の概要

- ・楽器演奏を通して、音楽のよこびと演奏に思いを伝える。
- ・参加費無料で、吹奏楽器などすべての楽器を無償貸出し。（楽器変更も自由）
- ・練習や演奏会を通して、存在感・達成感や協力・協調性を育む。
- ・演奏会の企画・進行を団員自ら行い、思いが伝わる演奏会の開催と地域の方との交流を大切に活動。

■ 特徴的な活動内容

- ・音楽教室ではないので専門教育はできないが、音楽が楽しくなる活動を実施。
- ・演奏会を開催し、練習成果・児童の成長の姿を確認する目標とする。
- ・地域の各種団体の事業に積極的に参画し、児童自らの手作り音楽会を開催する事で、児童の企画力と共に地域との交流で郷土愛への一歩となる。

■ 実施に当たっての工夫

- ・鍵盤楽器・管楽器・打楽器と自由に選択し、演奏できる楽器で練習することで挫折することなく音楽を楽しむ。
- ・練習日は、毎週土曜日の午前中。演奏会の1か月前より毎週土・日曜日の午前中に実施。
- ・演奏曲は、子どもたちの知っている曲を練習することで自発的に練習し、演奏できるようになる。
- ・季節のコンサートや地域のイベントに積極的に参加し練習成果の発表の場とする。（年間6回）
 - …学区内自治会主催の「花見コンサート・夏祭り・敬老会・運動会・秋まつり」等で演奏。
 - …毎年3月に団員による演奏会実行委員会をつくり、企画書を作成。学校長に説明して演奏会の許可を得て、昼の長休み時間を利用して体育館で演奏会を実施。団員みんなで企画・進行・設営・広報のいずれかを担当して演奏会を実施。
 - …春休みにスプリングコンサートを開催し、1年間の総仕上げと、卒業生の歓迎の演奏会としている。
- ・年に1回、館外研修を実施し、家族を含めた交流を実施。
- ・ホームページを開設し、活動紹介・団員連絡を掲載。毎週更新している。

■ 事業の成果

- ・一か月で簡単な曲が演奏できるようになり、達成感を感じ毎週の練習会に参加するようになった。
- ・演奏会を通じての企画・運営など全員で取り組むことで孤立することなくみんなで協力し、明るくなった。
- ・高学年になると練習姿勢も責任感と満足感がうかがえ、卒業後も中学校で吹奏楽部の中心的存在になっている。
- ・卒業後も、練習会や地域イベントに共に参加し、団員や地域と交流ができている。
- ・毎年学区内の自治会や体育振興会より演奏依頼を頂けるようになり恒例化してきている。
- ・結成以来10年を経過、これまで約200名（延べ人数）を数えている。

■ 事業実施上の課題

- ・今年度13名（過去最大30名）と団員確保に苦慮。市の広報紙や市内の小学校でPRしている。
- ・居場所としての雰囲気強く、練習会・演奏会の参加者が当日まで確定しないところがある。
- ・楽団の性格を理解した上での指導ボランティアの確保に苦慮。



【第9回スプリングコンサート 2016.3.23】



【大篠原自治会敬老祝賀会 2016.9.11】

■ 湖南省における土曜日の教育支援の取組（体制構築型・「学ぶ力」学習支援型）

■ 目指す姿

子どもが学校での学習をさらに深めたり、もっと知りたい、学びたいという意欲を高めたり、実社会で役立つ力として定着させたりすることは重要である。

そこで、土曜日や長期休業中に、地域の大人や大学生、卒業生（小・中連携）の支援を受け、学習や体験活動ができるプログラムを設定し、学ぶ意欲を高め、学ぶ力を高める機会を提供。子どもの教育活動に複数以上の地域の人に関わることにより、教員とは違った視点から子どもを多面的に見ることができ、その情報を教員と共有することにより、確かな学ぶ力の向上につながる。

■ 本年度の活動 「学ぶ力」学習支援型…小学校3校 「体制構築型」…小学校6校

実施校	開催日数	主な活動場所	主な内容
石部小学校	20日	学校、まちづくりセンター	学力補充、学習の発展
石部南小学校	10日	学校、学区の各施設	学力補充、学習の発展
三雲小学校	10日	公民館、まちづくりセンター	学力補充、学習の発展
三雲東小学校	10日	児童館、まちづくりセンター	学力補充、体験学習
菩提寺小学校	10日	学校、まちづくりセンター	学力補充、学習の発展
菩提寺北小学校	10日	学校、まちづくりセンター	学力補充、学習の発展
岩根小学校	20日	まちづくりセンター	学力補充（基礎・基本定着）
下田小学校	10日	学校	学力補充（課題学習）
水戸小学校	20日	学校、まちづくりセンター	学力補充（課題学習）

■ 本年度の成果

- ・ 子どもの状況や地域の実情に合わせて、人とのつながりを大事にし、学ぶ力を高めるために特化した「学ぶ力」学習支援型3教室と、地域の多様な人材の協力を得た支援体制で行う学力補充や体験学習を行う「体制構築型」6教室をそれぞれのプログラムで実施。
- ・ 「小・中連携」は地域コーディネーター、事業コーディネーター間、中学校区連携の取組等の中で行っており、子どもたちの学習や体験活動を豊かにし、教えることにより学ぶ力を高める場となっている。
- ・ この事業の推進にあたり、地域まちづくり協議会等の協力や支援を得る教室も出てきた。

■ 今後の課題

- ・ 土曜教育推進員の確保、実施日の調整が難しい。プログラムの事前準備に多くの時間がかかる。
- ・ 昨今の交通事情等を勘案した時、参加児童の自宅と会場間の行き来の安全確保は重要であるが、事業実施校の取組内容や運営の仕方が異なっており、全市的な財政の裏付けの確保が難しい。



【小学生の課題解決に中学生が支援】



【小学生の夏休み宿題教室】

■ 学ぶ楽しさ、学ぶ意欲を高め、石部の未来を拓く力を育てる（石部小学校）

■ 湖南市	
■ 活動名	いしべっ子学習教室（「学ぶ力」学習支援型）
年間開催日数	20 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	17 人
子どもの平均参加人数	14 人

■ 活動の概要

- ・長期休業期間や土曜日を利用して、地域の大人と触れ合いながら学習や体験活動をすることにより、学ぶ楽しさを体感させ学ぶ意欲を高め、石部の未来を拓く力を育てる場とする。

■ 特徴的な活動内容

- ①いしべっ子夏休み学習教室 … 7月21日(木) 7月23日(土) 8月1日(月) 8月6日(土) 8月25日(木)
夏季休業中5日間を設定し、夏休みの宿題や自主学習をする場を設け、地域のボランティアが学習の支援をする。
- ②いしべっ子わくわく科学実験教室 … 10月1日(土) 10月15日(土)
土曜日の2日間を設定し、1～3年生対象「ふしぎなスライムを作ろう」、4～6年生対象「クリップモーターを作ろう」をテーマに実験をする。
- ③いしべっ子学習教室 … 9月24日(土) 11月26日(土) 12月22日(木)
2学期に3日間を設定し、宿題（冬休みの宿題を含む）や自主学習をする場を設け、地域のボランティアが学習の支援をする。
- ④ふるさと石部の歴史を知ろう … 11月12日(土) 11月19日(土) 12月3日(土) 12月10日(土) 1月14日(土)
土曜日の5日間を設定。旧東海道を歩き東海道五十三次の51番目の宿場町として栄えてきた石部の歴史や郷土の偉人を知る。

■ 実施に当たっての工夫

- ①昨年度の課題を踏まえた上で、日程や時間配分を考え、校区のまちづくり協議会にも協力をお願いし、会場をまちづくりセンターに設定し、子どもたちが安全に楽しく学習ができるよう配慮した。学習支援ボランティアも地域の方々に協力いただいた。校区のまちづくり協議会には受付や駐輪場の管理などの協力もいただいた。
- ②下学年と上学年に分けて、子どもたちが興味を持つ内容を講師の方と共に話し合い決定した。講師の方と事前に準備を兼ねての実験をして、活動がスムーズに進むようにした。
- ③夏休みだけでなく、土曜日に学習教室をして欲しいとの要望があり、夏休み学習教室に準じる内容で実施した。
- ④見学させていただく施設には「自分たちの住んでいる地域の歴史を知り、我が町に誇りを持たせることにより、地域を愛し地域を大切にしようとする子どもを育てること」をねらいとして取り組むことを事前にお願ひに行き、協力を求めた。また、郷土研究家の方に講師になっていただき、説明をしていただいた。支援メンバーで事前に下見をしたのも効果的であった。

■ 事業の成果

- ①校区のまちづくり協議会や地域の学習支援ボランティアの協力に支えられ、のべ297名の子どもたちが参加し、安全に楽しく学習ができた。参加人数が多かったため、部屋を2つに分けて実施した。部屋を分けたことで特に高学年は集中した取り組みが見られた。子どもたちからは「宿題がはかどった」「集中してできた」「楽しかった」「いっぱい勉強できた」などの感想があった。
- ②子どもの発達段階に応じた実験内容であった。身の回りにある身近なものを使って、安全で楽しい科学の不思議を体験できた。
- ③参加人数はそれほど多くはなかったが、その静かに集中して学習に取り組み、宿題ができた後は用意しておいた学習プリントで復習するなど、自主的に学習に取り組む姿が見られた。
- ④「石部の宝物を見つけよう」を合い言葉に旧東海道を歩き、子どもの目線で石部の歴史を学習することができた。昔から伝わる食べ物をいただいたり、歌や話を聞いたりして、大人も今まで知らなかった石部を再発見する良い機会となった。

■ 事業実施上の課題

- ・「いしべっ子夏休み学習教室」は昨年度と比べ参加人数が約2倍に増えたことにより、下学年と上学年に部屋を分けて実施した。人数によっては、今年度のように部屋を分けたり、学年によって時間帯を変更したりする方法を考えなくてはならない。また、今年以上に学習支援ボランティアの確保が必要となる。

■ その他

- ・土曜日事業の取り組みには、地域の関わりが大事であり、校区のまちづくり協議会との連携が必要不可欠である。



【夏休み学習教室】



【ふるさと石部の歴史を知ろう】

■ 「子どもと地域がひびきあう！」みなみっこ土曜講座 （石部南小学校）

■ 湖南市	
■ 活動名	みなみっこ土曜講座 （体制構築型）
年間開催日数	10 日

コーディネーター数	2 人
土曜教育推進員数	2 人
子どもの平均参加人数	45 人

■ 活動の概要

- ・ 地域の特徴あふれる社会資源を活用し、豊かな体験をすることで子どもたちが地域への愛着を深めたり、人とのつながりを結んだりすることを目指している。

■ 特徴的な活動内容

- 「福祉施設訪問」
- 「いもち送り（地域の伝統行事）に参加」
- 「長寿寺の歴史学習と写生」
- 「みなみっこ夏休み子ども教室 5回」
- 「しめ縄飾り・もちつきの歴史を勉強しよう」
- 「石部南学区 古墳探訪」

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 地域の行事と重ならないようにした。
- ・ 長期休みの平日に土曜講座を実施することで、地域ボランティアさんが参加しやすいようにした。
- ・ 学校外での活動がある時は、あらかじめ推進委員と下見を行い、子どもの安全を確認した。
- ・ 石部南小学校区には多くの施設があり施設の皆さんにご指導いただき陶芸教室や木工教室を行った。
- ・ 東寺の長寿寺は国宝なので、歴史を知ると共にお寺の写生を行った。
- ・ 西寺の伝統行事「いもち送り」に参加した。
- ・ いもち送りに使う松明は、昼休みを利用して地域の方と子どもたちと一緒に作った。
- ・ 夏休み子ども教室では、「1年と6年」「2年と5年」「3年と4年」のペア学年にして各クラスごとに分かれて行った。
- ・ しめ縄飾り・もちつきの歴史を知る講座では、5年生の子どもたちが農業体験にて作った餅米を使い餅つきを体験した。
- ・ 餅米の藁を使い親子でしめ縄飾りを作った。
- ・ 石部南学区古墳探訪では地域の古墳巡りを行った。学区内にある古墳を巡るときに子どもたちに危険がないよう十分に下見を行った。

■ 事業の成果

- ・ 「夏休み子ども教室」の参加者が多かったことから、家庭の教育への関心が高いことがわかり、学習の場の提供ができた。
- ・ 「夏休み子ども教室」では中学生ボランティアが、小学生の学習サポートをしてくれた。
- ・ 夏休みや冬休みに土曜講座が行われたことで、子どもたちの居場所を多く作ることができた。
- ・ 地域の皆さんとの関わりが増えて、顔見知りが増えた。
- ・ 地域の行事と重ならないように開催日を設定したので、両方の行事に参加することができた。

■ 事業実施上の課題

- ・ 学習支援をしてくださるボランティアや推進員を探すことが難しい。
- ・ 講座内容によって、参加児童数に片寄りがあった。



【小学生の学習をサポートする中学生】



【「いもち送り」に向けて松明づくり】

■ 地域の方と子どもたちをつなぐ 学びと体験活動 ～さんさん教室～ （三雲小学校）

■ 所在地	■ 活動名
■ 活動名	さんさん教室 （体制構築型）
年間開催日数	10 日

コーディネーター数	3 人
土曜教育推進員数	5 人
子どもの平均参加人数	56 人

■ 活動の概要

夏休み前半の集中した10日間を使い、3か所の会場で「さんさん教室」を開いた。内容は、学習を1時間、体験活動を1時間の2部構成とし、たくさんの子どもが意欲を持って参加できるよう企画した。

■ 特徴的な活動内容

各日、午前中を使い1時間を学習に、続く1時間を地域の方を迎えて体験活動を行った。学習の内容は夏休みの宿題や自主学習とし、体験活動は、①大型紙芝居 ②和太鼓・箏 ③食育（おにぎらず） ④スライム作り を行った。期間中は推進員のほか、民生児童委員、健康推進委員、卒業生など地域の多くの方に活動を支えていただいた。

■ 実施に当たっての工夫

会場への行き帰りは安全が第一である。保護者の送迎を必須とすると参加が制限される児童もあるので、徒歩、自転車、車での送迎と手段は問わずに保護者の了承をもらった。また、希望する児童が来場しやすいよう学区内の公民館等を使って3会場を設けた。会場を3か所としたため、同じ内容の企画を3回ずつとなり、運営の効率化を図った。

昨年の反省を踏まえ、「子どもをお客さんにしない」ことを心掛け、会場の準備、活動中、後始末まで子どもたちも力を合わせて取り組んだ。事後のアンケートからも「自分たちのさんさん教室」と自覚を持っていたことが分かった。

学習だけでは、集中力が持続しないことが予想されたので、参加型の体験をあわせて企画した。この企画が「さんさん教室に行ってみよう」と参加のきっかけになっている。

■ 事業の成果

会場では、子どもたち同士で教え合う姿が見られた。体験活動中には多くの高学年が低学年の面倒を見るなど、異年齢の関わりを持つことができた。何より、のべ564名もの子どもが、地域の方の支援を受け、安全に楽しく学習・体験ができた上に、また来年も参加したいという声が多かった。保護者からも良い評価を寄せていただいた。また、不登校気味の児童も参加することができて、それぞれのペースで勉強することができた。さんさん教室への参加が2学期からの登校の意欲につながるものと期待している。

さんさん教室が夏休みの催しとして定着し、地域の方と子どもたちをつなぐ場となっている。それは、ご支援いただいた地域の方々の喜びとなっているとの声も寄せられた。

■ 事業実施上の課題

2年目の今年も多く参加申し込みがあった。1回あたりの参加者が多いため、会場の雰囲気は雑然とする日もあった。幸い机等は足りたが、ほぼ満員だったので、来年同じスタイルでさんさん教室を開くならば会場の検討が必要である。支援をする大人の人数不足、送迎車による駐車場の混乱なども来年への検討事項である。学習支援ボランティア、体験活動の講師、体験活動ボランティアと多くの形で支援をいただいたのだが、事前の打ち合わせや、成果のフィードバックが充分にはできていないので、改善していく必要がある。



【夏休み宿題に取り組む】



【食育教室 おにぎらず】

■ **学びの場・体験の場の提供 ～ひがしっこ教室～** （三雲東小学校）

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	7 人
子どもの平均参加人数	21 人

■ 活動の概要

「ひがしっこ教室」は、地域の児童館・まちづくりセンターの協力で実施している。昨年、児童だけを対象に開催したパン教室がとても好評だったことから、今年度も調理の体験を取り入れた。地域の方と知り合える機会として、グラウンドゴルフでの交流を三雲東青少年学区区民会議と連携し、12月23日に実施している。今年度は、校区内の二区の協力で交通安全教室も実施した。

■ 特徴的な活動内容

-

【親子パン教室 お父さんも大活躍！】

■ 実施に当たっての工夫

- ・ボランティアへのきっかけ作りになればと、「ひがしっこ教室」の開催日程を関連の中学校へも知らせた。「中学生も同じ場所で学習しませんか」と呼びかけた。
- ・学習では、自主的に取り組めるように自分で目標を決め、次回につながるよう反省もする。同じ場所を使用することから、準備、掃除、片付けは一緒に参加した仲間と協力してできるようにした。
- ・学習支援の推進員は、毎年来ていただいている方に加え、新たに参加児童の保護者にも協力をお願いした。
- ・夏休み中、前半、中ごろ、後半に学習・体験の機会を設けるようにした。
- ・地域のたくさんの方につながってほしいという思いで取組の説明をし、パン教室の講師も地元の方をお願いした。初めて関わっていたくため、打ち合わせは時間をかけて念入りにした。
- ・昨年の反省から、パン教室は親子のふれあい時間が増えること、作業中、大人の見守りもあることを念頭に設定した。
- ・協力者の多い団体と連携し、ボランティア協力をしていただいた。（「あつまれ！！ひがしっこ」）

■ 事業の成果

-

【ひがしっこ教室 中高生も優しい先生】

■ 事業実施上の課題

- ・開催日に合わせて推進員、ボランティアを探すことが難しい。

■ 小中連携・地域でつながる子どもたち ～学校や地域で学ぶ土曜日教室～（菩提寺小学校）

■ 湖南市	
■ 活動名	菩提寺小土曜日教室（体制構築型）
年間開催日数	10 日

コーディネーター数	2 人
土曜教育推進員数	10 人
子どもの平均参加人数	25 人

■ 活動の概要

菩提寺学区は2つの小学校があり、学校行事や諸活動において情報交換しながら、教育活動を推進している。土曜日教室においては、季節行事や時期に合わせて内容を考え、子どもたちの興味や関心、ニーズのある活動を中心に設定している。夏休みの勉強会では夏休みの課題が取り組める時間となるよう学習ドリルだけでなく、図画工作科の作品づくりもできるように工夫を凝らしてきた。また、地域の散策等の郷土を知る学習においては、2校が合同で行うことで参加人数を増やしたり、学習活動や交流が活性化したりできるように効果的な教室の開催を目指して進めてきた。さらに、まちづくり協議会の協力を得ることで、計画や運営にも携わっていただき、活動がより充実したものとなるように体制を整えてきた。そうした中で、活動場所、支援の人的体制、活動内容等が広がり、子どもたちの学びも広がっている。

■ 特徴的な活動内容

1. 菩提寺散策（郷土を知る）
2. 夏休み勉強会
3. 夏休み勉強会
4. 夏休み勉強会（絵画）
5. 夏休み勉強会
6. ペットボトルロケット制作（理科）
7. 啓発看板作り（図工・道徳）
8. 年賀状を書こう（図工）
9. 書き初め（書写）
10. 菩提寺ハイキング（郷土を知る）

■ 実施に当たっての工夫

2校合同での活動ばかりでは、活動場所が校区外になり参加したくても参加ができない児童が多数いる。前年度の反省から、郷土を知る学習においては、活動場所をまちづくりセンター等で合同開催で行うが、活動の多くはそれぞれの学校の活動内容にあわせて活動する形態を工夫した。

■ 事業の成果

- ・各回、まちづくり協議会と地元中学生のボランティアというサポートがあり、活動の大きな力になっている。
- ・活動は各校で実施することが多かったが、コーディネーター同士で情報の共有に努めた。
- ・合同で活動する回では、子どもたちは他校との交流ができ一緒に郷土を知る時間を持つことができた。
- ・活動内容によっては、2校合同での実施が望ましいこともあるが、児童の参加しやすさを考慮すると各校での実施という選択もよかったように思える。
- ・夏休みの勉強会を4回実施した。普段の授業と違い異学年の子どもたちが同じ教室で一緒に勉強することで、上級生が下級生に勉強を教える様子が見られた。中学生や大学生のボランティアに教えてもらうことも良いが、小学生同士でも教え合うことができ、学校で行う夏休み勉強会ならではの良さもあった。

■ 事業実施上の課題

- ・2小学校から中学生のボランティア依頼をする場合の小学校の連絡窓口を一つにするということを検討する必要がある。
- ・毎年実施している活動がマンネリ化しないように工夫や改善を加えて、次年度の計画を立てていきたい。



【夏休み勉強会 図書室では1年生から4年生】



【親子でペットボトルロケット制作
中学生がボランティアで参加】

■ わくわく学習・活動 ～小・中連携でつながる絆～（菩提寺北小学校）

■ 湖南市	
■ 活動名	あすなろわくわく教室（体制構築型）
年間開催日数	10 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	2 人
子どもの平均参加人数	45 人

■ 活動の概要

菩提寺学区には2校の小学校があり、6回は各学校で開催するが、4回は2校合同で開催している。その中で、夏休みに4回行っているが、「わくわく学習教室」として夏休みの宿題の学習サポートを行った。

また、ボランティアとして甲西北中学校の生徒が参加し、小学生との絆を結んでいる。

■ 特徴的な活動内容

日 程	内 容	実 施 場 所	参加者数
第1回 6月18日	菩提寺歴史散策	まちづくりセンター	1人
第2回 7月27日	わくわく学習教室	菩提寺北小学校	67人
第3回 8月2日	わくわく絵画教室	菩提寺北小学校	81人
第4回 8月10日	わくわく学習教室	菩提寺北小学校	79人
第5回 8月22日	わくわく学習教室	菩提寺北小学校	75人
第6回 9月24日	ペットボトルロケット	菩提寺小学校	8人
第7回 10月8日	啓発看板作成	まちづくりセンター	3人
第8回 12月10日	年賀状作り	菩提寺北小学校	16人
第9回 1月6日	新春書初め	菩提寺北小学校	25人
第10回 2月18日	案内板付ハイキング	まちづくりセンター	5人

■ 実施に当たっての工夫

夏休みは、宿題や夏休みのポスター描きの講座を開催することで、毎年たくさんの参加者がある。

学習教室では夏休みの宿題のドリルや、プリントを視聴覚教室（3・4・5・6年）と図書室（1・2年）に分かれて学習支援のボランティアさんに教えてもらいながら、どんどん宿題を仕上げていく。

また、エアコン設備がある教室を使用することによって、学習効率の向上を図った。中学生のお兄さん、お姉さんに教えてもらうことで学習がはかどったことも大きな点である。



【視聴覚教室 高学年 みんな真剣に取り組む】



【勉強 頑張った後のかき氷 最高！！】

■ 事業の成果

「あすなろ わくわく学習教室」の開催には、実に全校児童の40%強が参加するという高い参加率であった。それは、「一人でするよりも、友達と同じ空間で学習したい」「家よりも学校の方が集中できる」といった理由からである。家にいるとどうしても、何か食べたり、テレビを見たり、ゲームをしたりと学習の妨げになる要素が多いのは確かである。

また、甲西北中学校の生徒によるボランティア学習サポートは、中学生にとっても本校児童にとっても有意義であり大変意味のあることであった。中学生は、「教える」ことで頼られる自分を発見し、「自尊感情」が高まっていく。児童からの視点でいうと、「私もあんなふうな中学生になりたいな」というモデリングになり得る。

■ 事業実施上の課題

講座によっては、参加者が少ない・多いの差が大きい。少ない場合は再度募集するなどしているが、「なぜ、集まらないのか」「子どもたちが、どういうものに興味を持ち、参加しようと思うのか」を来年度の講座を決める時、しっかり考えていかなければならない。

■ その他

湖南市立菩提寺北小学校ホームページ：<http://www.edu-konan.jp/bodaijikita-el/>

■ 学ぶ楽しさを土曜教室から ～1対1の関わりを大切に～ （岩根小学校）

■ 湖南市	
■ 活動名	岩根小土曜教室 （「学ぶ力」学習支援型）
年間開催日数	20 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	15 人
子どもの平均参加人数	6 人

■ 活動の概要

「しんどい子によりそい」「子どもをお客さんにしない」は、岩根小学校の教育方針である。放課後教室、クラブ、高齢者ふれあいサロン、ホタルまつり、店長修業、1年生清掃支援、学習支援、環境支援、図書支援、読み聞かせ、登下校の見守り、稲作体験など、様々な活動や支援を展開しているが、「土曜教室」もその一環である。

「岩根小土曜教室」の目的は授業以外の場で子どもたちの学習を支援することであり、本校の場合、「気になっても、なかなか仕事等の関係で子どもの学習を見てやれない、学校の休日にも家には子どもだけなので、なかなか家庭学習の習慣を身につけることができない」3・4年生を対象に実施している。また、指導にあたっているのは、学区内に居住する教員OBや学生ボランティアを中心に、「岩根の子どもたちの力になりたい」という熱い思いを持ってくださっている方々である。

■ 特徴的な活動内容

当該学年の内容だけでなく、子ども一人ひとりのつまずきによっては1～2学年前から学習をスタートし、しだいに積み上げていくよう工夫している。その内容は国語や算数の基礎的な学習が主で、音読練習を課して、期末には音読発表の機会を設けている。

- * 1日の流れ
- 9:20までに、まちづくりセンターに「登校」する。
- 9:30～9:50 はじまりの会（あいさつ。アイスブレイキング、頭の体操など）
- 9:50～10:30 1時間目（教科は、子どもと指導者が相談して決める）
- 10:30～10:40 休憩（「ことわざカルタ」のようなカードゲームを楽しむ）
- 10:40～11:20 2時間目（1時間目とは異なる教科。国語を学習した子は算数、算数の子は国語）
- 11:20～11:30 あとかたづけ、あいさつ
- 11:20～12:00 指導者による打ち合わせ（今回の学習の様子を報告し、次回の計画を練る）

■ 実施に当たっての工夫

教室の運営を担う指導者（ボランティア）が、対象となる子ども一人ひとりの学習状況を細かく把握し、1回ごとに「この子の今日の学習は……」と、プログラムを立てている。そのうえで、指導者1名が子ども1名について指導するという体制をとり、わからないところ、困っているところを克服できるように支援している。それだけに、事後の「打ち合わせ」の時間を大切に、単なる情報交換にとどまらず、どのように支援していくことが有効かを、それぞれの視点から意見を述べ合う時間を持っている。

■ 事業の成果

低学年での学習が定着していない子どもにとって、学習以外での楽しみを学校生活の中で求めようとしたとき、仲間づくりや行事などで頑張っていることもあるが、授業に集中できずに遊んでしまうことが多くなってしまう。中学年の時期に学ぶ楽しさやできた喜びをしっかりと持つことは、今後の成長に大きな影響を及ぼす。土曜教室では、1対1での関わりを大切に、その子に応じた学習を行うことにより、学習からの笑顔が見られることを目標にしてきた。自分の苦手な分野になると「なんとかごまかして逃げようとする」子どもも見られることから、わからないことを「わからない」と言えるようにすることも大切にしてきた。「わからない」と口にしても誰一人怒りも冷やかもしない場において、子どもたちは自己肯定感を獲得し、学習に対して前向きな姿勢を持つようになることが土曜教室の大きな成果であると言える。

■ 事業実施上の課題

家庭学習との連携（学習の定着）をどう図るか。土曜教室に通っていない子どもの学力保障をどうするか。



【一人ひとりの課題を一人ひとりの指導者が】



【「できた」「わかった」喜びを大切に】

■ 『地域の力で下田っ子を育てよう!!』しもだっこはしらべっこ（夏休み調べ学習会）（下田小学校）

■ 湖南省	
■ 活動名	しもしょう土曜教室（体制構築型）
年間開催日数	10 日

コーディネーター数	2 人
土曜教育推進員数	3 人
子どもの平均参加人数	25 人

■ 活動の概要

下田小学校では今年度も夏休みの宿題会「しもしょうサマースクール2016」や地域の行事への参加をすることでの体験学習、日枝中学区合同企画の「書道教室」などを実施した。ただ、昨年度実施した調べ学習会スタイルの学習支援を、それも地域のボランティアの協力のもと、子どもたちが自分たちでテーマについて調べるというスタイルで行うことは可能ではないかとの昨年度の総括評価から、今年度は「しもだっこはしらべっこ ～調べ学習会～」を企画、実施した。

■ 特徴的な活動内容

《実施日時》平成28年8月24日（水） 午前9時00分～午後3時00分

《活動場所》下田小学校 図書室

《活動内容》本校の図書室を利用し、事前に地域のボランティアとコーディネーターとで考えたテーマについて、子どもたちがグループで協力して調べ、最終的に模造紙1枚にまとめて発表をする。

《テーマ》1班：恐竜について 2班：星について 3班：オニについて

■ 実施に当たっての工夫

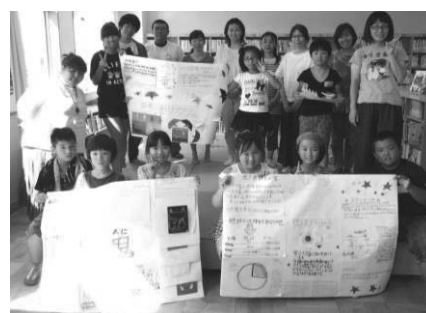
- ①サマースクールでは中学生に先生として活躍してもらっているが、「しもだっこはしらべっこ」では地域のボランティアに活躍していただいた。
- ②地域のボランティアには、事前に打ち合わせの機会を持った。テーマを考え、調べ学習のリハーサルを行った。
- ③当日、子どもたちの行き帰りの安全確保のため、学校前で地域のボランティアに見守りをしてもらった。
- ④当日まで、子どもたちにテーマを知らせないようにした。
→事前にインターネット等で調べないようにするため。
- ⑤本で調べる内容は、文章にまとめるだけでなく、絵を描くことや、折り紙を使って作品を作ることも良いとした。
- ⑥まとめたことを発表し、参加者みんなが調べたこと、学習したことを共有できるようにした。
- ⑦子どもたち自身に活動させるため、ボランティアには子どもたちを見守り、困っている時に少し支援するという形で活動していただいた。



【調べ学習に集中】

■ 事業の成果

- ①いつも授業等で利用している図書室を使って調べ学習をしたことで、子どもたちが集中して活動することができていた。
- ②図書室で本を借りるときには、自分の好きなジャンルの本を借りることが多いので、子どもたちが、図書室全体の把握をしていなかったが、今回、与えられたテーマについての本を探すことで、知らない本と出会うことができた。
- ③グループでの活動にしたことで、一人では調べきれないことや、自分とは違う視点で調べることができ、色々なことを知ることができた。
- ④まとめたことを発表したことで、参加者みんなが学習内容を共有でき、他のグループのテーマにも興味を持つことができた。



【発表を終えて】

■ 事業実施上の課題

- ①コーディネーターとボランティアとがテーマを決めたことで、興味を持てず、なかなか調べ始めることができない児童がいた。
- ②1グループ子ども3人にボランティアも3人と、マンツーマンで支援ができたことは良かった点も多い（集中が切れそうになった時にこまめに声掛けができた等）のだが、子どもたちがボランティアを頼りにしすぎるところもあった。
- ③今回、3年生の参加者が多かったこともあり、まとめに時間がかかった。本の内容をそのまま写すことも多く、自分の言葉でまとめることができなかった。
- ④発表するにあたって、どうすればうまく発表することができるか等のコツをボランティアが伝えることができなかった。まとめが終わった後、発表の練習時間をとれなかった。

■ ～地域のひとと学ぶ、「水戸小学ぶ力アップ！教室」の取組～ （水戸小学校）

■ 湖南市	
■ 活動名	水戸小学ぶ力アップ！教室 （「学ぶ力」学習支援型）
年間開催日数	20 日

コーディネーター数	2 人
土曜教育推進員数	15 人
子どもの平均参加人数	30 人

■ 活動の概要

- ①外国にルーツをもつ子どもたちの勉強会
- ②夏休み中の宿題応援隊
- ③夏の絵画教室&冬の書道教室（小中連携）

■ 特徴的な活動内容

教職員ではない地域の大人や地域の中学生・高校生に学習の場に参加してもらいながら、子どもたちの学ぼうとする意欲を支えてもらい、学習する楽しさや実社会で役立つ力を育むための取組。



【夏の絵画教室】

■ 実施に当たっての工夫

- ①日本語の理解度により個々の学習のペースが異なるため、丁寧な指導が必要。夏休み、冬休みを利用した学力補充教室を昨年より回数を増やして行った。あらかじめタイムスケジュールや決まりを説明し、集中して取り組むことができるようにした。
- ②夏休み水泳教室の前後の時間を利用したため、たくさんの子どもが参加でき宿題に取り組むことができた。
- ③小学生の参加人数が多く、中学生だけでは指導者を集めるのが難しく中学校のコーディネーターと地域の高校生や水戸小出身の高校生にも声をかけることになった。中学生、高校生ともに交流でき小学生は楽しく絵画や書道の宿題に取り組むことができた。

■ 事業の成果

- ①毎回 30 名を超える参加者があり、意欲的な姿や「わかった！」と嬉しそうな姿を見ると、指導する側もやりがいを感じることができた。計算や漢字、カタカナなどは一人ががんばろうとする姿があったが、算数、国語の読解はやはり難しそうだった。土曜教育推進員には、保護者の参加や継続して参加してくださった方が多く、子どもたちも安心した様子で、学校や子どもたちの現状を理解してもらえるよい機会だった。
- ②一人で過ごすことが多い休日に学校で友だちと一緒に勉強する前向きで楽しそうな姿が見られた。
- ③昨年の絵画教室は地域の学習支援センターで行ったが、今年は学校で行った。移動や洗い場、トイレなど日頃から使い慣れていた場所で安心して取り組めた。宿題が仕上がるだけでなく中学生・高校生とコミュニケーションをとりながら活動することができた。早く終わった子どもは図書室で読書を勧めた。図書室にも推進員を配置し、子どもを見守っていただいた。書道では中学校で一緒になる同じ学区の小学生とも触れ合えるので毎年楽しい活動である。



【外国にルーツをもつ子の勉強会】

■ 事業実施上の課題

学習では、今日はどこをやるというめあてを子ども自身に決めさせて主体的な学びの場であることを意識づけたい。また、どうしてもつまずきのある子どもへの関わりが多くなってしまうので、学びを深めたい子どもへの教室も展開していきたい。

夏休みの絵画教室は2日間の日程で行ったが、初日で作品が仕上がって2日目のモチベーションが上がらない子もいたので、日程やタイムテーブルなど見直しが必要である。地域には経験豊かなOBがたくさんおられるので、今後も推進員としての登録をお願いしたり、土曜日事業の活動を周知したりすることに力を入れていきたい。

■ その他

学ぶ力に特化した取組は「もっと勉強したい！」「もっとわかりたい！」という強い意欲を持ち参加する子どもが多かった。またこの取組の成果として以下のようにそれぞれの立場で、充実感を得ることができたこともわかった。

- ・お兄さんお姉さんと勉強できて楽しかった！ （小学生）
- ・水戸小に来るとやっぱりふるさとやなあって思った。 （中学生）
- ・日頃小学生に教える機会がないので面白かった。 （高校生）
- ・勉強を教えるというたいそうだけど、寄り添うだけでいいことがわかった。 （推進員）

■ 東近江市における土曜日の教育支援の取組 (体制構築型・「学ぶ力」学習支援型)

■ 目指す姿

蒲生マックスクラブでは、M（みる）A（あじわう）K（きく）K（かぐ）S（さわる）の五感を使って子どもたちが最大限〔MAX=MAKKKS〕の力を導き出し、豊かな心や生きる力を育むことを目的とした活動を実施している。

■ 本年度の活動

○蒲生地区地域教育協議会が主体となり、蒲生コミュニティセンターを拠点として活動を展開している。

- ・ そろばんクラブ：そろばんを基礎から学びます。
- ・ あかねジュニアバンド：最終的に各種大会で発表・演奏ができることを目標とし、楽器演奏の基礎から練習します。
- ・ ITキッズクラブ：パソコンをみんなで楽しみながら学びます。
- ・ 陶芸クラブ：粘土で自分の好きな作品を作ったり、絵付けをしたりします。
- ・ KIDS FLOWER：プリザーブドフラワー・押し花等を使って、母の日やクリスマスなどのイベントのアレンジメントをします。
- ・ 蒲生野太鼓わらべ組：楽しく太鼓を学び、地域や市内各地のイベントに参加します。
- ・ マックスダンス（初級）：ダンス経験のない小学生を対象とし、基礎的なステップやダンスの練習をします。
- ・ マックスダンス（上級）：経験者を対象にフリースタイルダンスに取り組みます。
- ・ 茶道クラブ：裏千家茶道の基本からお盆点てまでを学びます。

■ 本年度の成果

- ・ 蒲生マックスクラブは、従来から休日の児童・生徒の教育活動支援を行ってきた。蒲生地区において、長年継続的に活動してきたことで、地域が主体となって取り組む活動として根付き、毎年多くの児童生徒が参加する事業となっている。
- ・ 地域のイベントや、毎年3月に開催している「マックスクラブ発表会」など、子どもたちの学びの成果を発表する場を設け、広く地域の人々に当事業の目的や内容、成果を発信した。これらのことを通じて、子どもの体験活動や居場所づくりの他に、地域教育の活性化にも貢献できた。

■ 今後の課題

- ・ 今後も休日等における子どもの身近な居場所を広げ、学びの場としてコミュニティセンター等を利用して、さらに活動を充実させるとともに、放課後や休日を有意義に過ごせていない子どもたちの新たな視点に立った活動も考えていきたい。

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名	蒲生マックスクラブ そろばんクラブ（「学ぶ力」学習支援型）
年間開催日数	11 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	1 人
子どもの平均参加人数	5 人

■ 活動の概要

- ・そろばんの基本的な使い方を学習する。
- ・そろばんを使って計算能力の向上を図り、算数の仕組みを理解する。
- ・そろばんの技能と算数の仕組みを理解することを通して、子どもたちの学ぶ意欲を高める。

■ 特徴的な活動内容

- ・コミュニティセンターを利用して、そろばん教室を実施している。
- ・クラブ員の理解度に応じて、個々に対応した学習を行っている。
- ・「できる」「わかる」ことを大切にし、子どもたちの学習に対する意欲全般を高めるようにしている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・気分転換を図るため、途中でゲームなどを取り入れ、子どもたちの意欲が持続するように工夫している。
- ・お茶休憩の時間等、子どもたちが関わりあう時間を設定してクラブでの仲間づくりにも努めている。
- ・そろばんの学習については、子どもたちが集中して取り組める学習の展開を工夫している。
- ・子どもたちにとって身近なところにあるコミュニティセンターを利用することで、地域の子どもたちが教室に参加しやすくしている。

■ 事業の成果

- ・単年でなく、毎年継続して教室に参加する子どもがいる。
- ・そろばんの技能が高まり、算数の理解が深まるほど、学習に集中して取り組む子どもたちの様子が見られ、学習に対する意欲の高まりが感じられた。
- ・初めてそろばんを学習した子どもも継続して1～2年続けると、掛け算や割り算もできるようになり、よりそろばんに対する興味が高まった。

■ 事業実施上の課題

- ・月1回の活動なので、前回の内容を忘れる子どもがいる。
- ・自宅でおさらいをするように言っているが、徹底させるのは難しい。
- ・集中を切らさないようにするのが難しい。個人によって集中の度合いが様々であり、その対応の手立ての工夫が必要である。

■ その他

- ・蒲生マックスクラブ発表会では、そろばん体験教室を開催し、活動の内容を広く地域の子どもたちにPRした。



【活動の様子①】



【活動の様子②】

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名 蒲生マックスクラブ あかねジュニアバンド （体制構築型）	
年間開催日数	11 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	1 人
子どもの平均参加人数	13 人

■ 活動の概要

- ・今年度から新たに始めたクラブなので、参加者の全員が初心者である。
- ・継続的な練習が必要であるため、毎週練習を行い、可能な限り、県・市・地区の大会に出場して演奏の経験を積み重ねている。
- ・地域の行事やイベントを盛り上げるために、地域の活動に積極的に参加している。

■ 特徴的な活動内容

- ・全員が初心者なので、まずは音を出すことから始めている。
- ・簡単な曲から取り組み、次第にレベルの高い曲に移行している。
- ・子どもの健康を考え、永久歯が生えそろう小学校3年生以上を対象にしている。
- ・地区や市の大会、発表会等への出場や参加に向けて、常に目標を持って練習している。

■ 実施に当たっての工夫

- ・初心者ばかりなので、練習が単調にならないよう、簡単な曲を演奏するようにしている。
- ・少しずつ吹けてくると、個々のレベルを上げるため、パートごとに分かれて練習している。
- ・発表や大会に出場することを通して、子どもたちのステージ発表に対する意欲を高めるとともに、年間の活動についてもメリハリをつけるようにしている。

■ 事業の成果

- ・子どもたちは、毎回の活動をなにより楽しみにしてくれている。
- ・曲が演奏できるようになると、よりよいものへと子どもたちも求めるようになってきた。
- ・保護者の方で楽器心得のある方が補助としてサポートしてくれている。
- ・今までの2～3回の発表会では、「始まったばかりのクラブとしてはよく頑張っている」との講評をいただいた。

■ 事業実施上の課題

- ・楽器演奏の習得には個人差があり、揃えるのが難しい。
- ・通常はコミセンで練習しているため、防音上、練習場所の確保が難しい。



【練習の風景①】



【練習の風景②】

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名 蒲生マックスクラブ ITキッズクラブ (体制構築型)	
年間開催日数	10 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	1 人
子どもの平均参加人数	3 人

■ 活動の概要

- ・パソコンの基礎的な操作の習得を目的にするとともに、仲間と楽しみながら学習している。
- ・パソコンを使用して名刺や年賀状作りに取り組み、具体的な操作の方法を学習する。

■ 特徴的な活動内容

- ・パソコンを上手に活用すると、いろいろな楽しみ方が出来ることが理解できるように活動している。
- ・パソコンについての学習だけでなく、はがきでブーメランやプロペラを作り飛ばす等、身近なものを利用して子どもが興味を持って取り組める体験的な活動も取り入れている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・途中でゲームをしたり、ティータイムをとったりして気分転換を図りながら、子どもたちの集中力が持続するように工夫している。
- ・パソコンの操作だけでなく、ものづくり等の体験的な活動を通じて、クラブ員同士の交流を図り、仲間づくりも大切にしている。
- ・具体的に名刺や年賀状を作ることで、できる喜びや製作の楽しさを味わえるようにしている。
- ・マックスクラブ発表会やあかね年賀状展など、地域の行事等で作品を発表し、活動に対する意欲を高めている。

■ 事業の成果

- ・5月から始めた初心者子どもたちがゆとりを持って操作できるようになってきた。
- ・最初はパソコンの操作に戸惑っていた子どもが、回を重ねるごとに操作に慣れ、意欲的にパソコンの操作に取り組む様子が見られるようになった。
- ・名刺や年賀状作りでは、各自熱心に取り組み、それぞれに満足いく作品が完成した。
- ・保護者も参加し、一緒に画面に向かう姿がみられ、親子のふれあいを感じることができている。

■ 事業実施上の課題

- ・リラックスタイム等、子どもたちの集中力が途切れないように工夫しているが、集中力を持続させるための他の手立てを考えていく必要がある。
- ・パソコン以外にも子どもたちが興味を持って取り組める簡単なものづくり活動等の構築も必要である。

■ その他

- ・蒲生マックスクラブ発表会の子ども体験コーナーでは、パソコン体験やペーパークラフトを行い、活動内容を紹介しPRした。



【活動の様子】



【平成27年度 マックスクラブ発表会】

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名 蒲生マックスクラブ 陶芸クラブ（体制構築型）	
年間開催日数	11 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	7 人
子どもの平均参加人数	15 人

■ 活動の概要

- ・土からの焼き物作りを実施している。
- ・陶芸を通じて、自分の好きな作品を作ったり、絵付けをしたりして、子どもたちが作品の完成を楽しんでいる。
- ・お互いの作品を鑑賞することを通じて子どもたち同士が交流し、意欲的に取り組む活動を展開している。

■ 特徴的な活動内容

- ・年間で一人が4～5作品を制作する。
- ・マックスクラブ発表会で作品を発表し、自身の学習の成果を披露している。
- ・マックスクラブ発表会では、広く地域の子どもたちに対しても陶芸体験教室を実施している。

■ 実施に当たっての工夫

- ・作品作りでは、子どもの自主性を尊重し、出来るだけ指導者は、直接手を出さないように心がけている。
- ・マックスクラブ発表会等で子どもたちの作品を発表し、次の作品への創作意欲を高められるようにしている。
- ・陶芸体験教室を実施することで、その面白さや楽しさをよりたくさんの子どもたちに体験してもらい、クラブ員を増やす工夫をしている。

■ 事業の成果

- ・陶芸に関心のある子どもが着実に増えてきている。毎年、コンスタントにクラブ員が集まる教室である。
- ・子どもたちは、作陶に積極的に取り組み、作品作りに集中する様子が見られた。
- ・作陶に親しみ、マックスクラブの目指す姿である様々な感覚を高めることができた。
- ・クラブ活動や体験教室を通じて、陶芸に関心を持ってもらうことができた。

■ 事業実施上の課題

- ・制作時間に個人差があり、早く終わった子どもや丁寧にゆっくり作業を進める子どもへの対応が難しい。
- ・活動は作陶作業が中心であるが、その活動に変化をつけることによって、より子どもたちの制作意欲が持続すると考えているが、その手立てについて工夫が必要である。

■ その他

- ・蒲生マックスクラブ発表会では、陶芸教室を開催し活動の内容を広く地域の子どもたちにPRしている。



【土からの作品作り】



【平成27年度 マックスクラブ発表会作品】

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名	蒲生マックスクラブ KIDS FLOWER (体制構築型)
年間開催日数	6 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	2 人
子どもの平均参加人数	7 人

■ 活動の概要

- ・ フラワーアレンジメントの基礎的な作り方やアレンジの方法を習得することとともに、仲間と共通の趣味を楽しむことを目的に開催している。
- ・ フラワーアレンジメントを作成する活動を通して、子どもたちの創造性を高めることも目的としている。

■ 特徴的な活動内容

- ・ プリザーブドフラワー・押し花等を使って、母の日やクリスマス等のイベントのアレンジメントを中心に作成している。
- ・ じっくりと落ち着いてフラワーアレンジメントに取り組むことで、創造することの楽しさを味わうとともに子どもたちの活動に対する持続性も養っている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 作品作りには時間がかかるため、時間内に終わるように、下準備には時間と手間をかけている。
- ・ 仲間と和気あいあいとフラワーアレンジを楽しみながら活動することを通じて、仲間づくりもできるように工夫している。
- ・ お互いの作品を鑑賞し合うとともに、その作品を地域の行事などに展示して、多くの方に観てもらうことで創作意欲を高めるようにしている。

■ 事業の成果

- ・ フラワーアレンジに積極的に取り組み、作品作りを楽しむ姿が見られた。
- ・ 地域で周知され、毎年教室が開催される継続的な活動ができています。
- ・ 熱心に作成する子どもたちの様子から集中力や持続力を養えたと考える。
- ・ フラワーアレンジメントに対するアレンジ力や創造力が身についた。

■ 事業実施上の課題

- ・ 十分に事前の準備には取り組んでいるが、いざ活動となると子どもたちは一生懸命となるので、決められた時間内に活動を終了するのが難しい。
- ・ フラワーアレンジメントは材料費がかかるため、少ない予算の中で充実した活動を行うのは大変である。

■ その他

- ・ 蒲生マックスクラブ発表会等の展示コーナーで作品を発表したり、アレンジフラワー体験教室を実施したりして活動内容を紹介しPRしている。



【作品作りの様子】



【平成 27 年度 マックスクラブ発表会作品】

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名 蒲生マックスクラブ 蒲生野太鼓わらべ組（「学ぶ力」学習支援型）	
年間開催日数	42 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	8 人
子どもの平均参加人数	14 人

■ 活動の概要

- ・ 基本的な和太鼓の演奏方法を学習する。
- ・ 和太鼓文化に触れながら、演奏技術の向上と集団で演奏する楽しさを学ぶ。
- ・ 地域の行事やイベント等に参加し発表している。

■ 特徴的な活動内容

- ・ 通常の練習は、地域の蒲生コミュニティセンター（H28. 9月～H29. 2月は、蒲生商工会館）において行っている。
- ・ 蒲生マックスクラブ発表会の他に、地域での様々なイベントや行事において、積極的に演奏活動を行っている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 習熟度別に、初心者向きと中級者向きとに分かれて練習し、子どもたちの意欲が途切れないように工夫している。
- ・ 太鼓の数が限られているため、初級者（低学年者）の練習の後、中級者の練習をしている。
- ・ 先輩が後輩を指導する等、縦のつながりも大切にしながら活動している。
- ・ 積極的に発表の機会を設け、クラブ員として活動に対する意欲が高まるようにしている。

■ 事業の成果

- ・ 年度初め（5月）から始めた子どもたちが3月の発表会では一人で叩けるようになった。
- ・ 当教室和太鼓は継続的に取り組む子どもがたいへん多い。
- ・ マックスクラブを卒業しても、上部団体の「鈴温泉太鼓」に加入し、和太鼓を続けるクラブ員が多い。後輩（わらべ組）の指導にも積極的に協力してくれるので、小中学生と青少年層とのつながりができている。

■ 事業実施上の課題

- ・ 新規の指導者の育成は必要である。
- ・ 和太鼓は、数年続けないと一人前にならないので、継続的に活動する子どもが多い。そのため、欠員がなく新規の子どもたちの募集が少なくなり、希望者の意向に添えないことがある。



【和太鼓の発表風景①】



【和太鼓の発表風景②】

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名	
蒲生マックスクラブ マックスダンス（初級）（体制構築型）	
年間開催日数	11 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	1 人
子どもの平均参加人数	13 人

■ 活動の概要

- ・ 基礎的なステップを中心にダンスの練習を行っている。
- ・ 積極的に地区や市の大会に出場し活動している。
- ・ 地域の行事やイベントに参加し発表している。

■ 特徴的な活動内容

- ・ マックスダンスでは、初級・上級のクラスを設けており、子どものレベルに合った教室が選択できるように工夫している。
- ・ 初めて取り組む子どもも多く、楽しく活動することに重点を置いている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 初級クラスにおいては、練習でも発表でも常に楽しい雰囲気を大切にしている。楽しい雰囲気をつくることを通じて、初心者の子どもたちの意欲が継続し、高まるように工夫している。
- ・ 地区や市の大会にも出場することで、子どもたちの発表に対する意欲が高まるとともに、年間の活動についてもメリハリをつけ、子どもたちが活動の見通しが持ちやすいように工夫している。

■ 事業の成果

- ・ 子どもたちは意欲的に教室に参加している。
- ・ 今まで継続的に行われてきた教室であるため、翌年はレベルを上げた教室に参加する子どもが多く、段階を経て上達することができている。

■ 事業実施上の課題

- ・ 練習時間が短いため全体動きを合わせるの難しいことがある。



【練習の風景】



【マックスクラブ発表会】

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名 蒲生マックスクラブ マックスダンス（上級）（体制構築型）	
年間開催日数	11 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	1 人
子どもの平均参加人数	17 人

■ 活動の概要

- ・初級クラスより難度の高いステップを中心に、フリースタイルダンスの練習を行っている。
- ・ステージでの発表を活動の中心として、積極的に各大会に出場している。
- ・地域の行事やイベントにも参加し、会場を盛り上げている。

■ 特徴的な活動内容

- ・大会に向けて目標を持ちながら練習している。
- ・初級クラスでダンス経験を積んだ子どもたちの加入が多く、より高度な内容で目標を定めて活動を行っている。
- ・地区や市の大会等に出場したり、地域のイベントや行事に参加したりすること等、目標が明確であり、それに向けて子どもたちが意欲的に練習を積んでいることが特徴的である。

■ 実施に当たっての工夫

- ・ダンスの技能も初級クラスよりさらに高度となり、その習得のための練習は大変であるが、その困難に負けないようにお互いに明るく声をかける等、楽しい雰囲気をつくっていくよう努めている。
- ・発表会や大会に出場する中で、みんなで共通の目標を持ちながら活動するようにしている。目標を持たせ、子どもたちもメリハリを持って練習に取り組めるように工夫している。

■ 事業の成果

- ・今までの積み重ねもあり、練習を重ねるごとに子どもたちは、どんどんレベルアップしていき、より練習に集中する様子が感じられた。
- ・大会出場を重ねることで、子どもたちはより難度の高い技能やステージ発表を希望するようになり、意欲的な取り組みの姿勢が見られた。

■ 事業実施上の課題

- ・子どもたちの目標に向かう思いに応えていきたいが、ダンスが高度になるほど、その技能の習得にも個人差が出てくるため、ステージ発表をどのレベルで納得させ、演技するのが指導者として難しい。



【練習の風景】



【平成 27 年度 マックスクラブ発表会】

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名	
蒲生マックスクラブ 茶道クラブ（体制構築型）	
年間開催日数	9 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	1 人
子どもの平均参加人数	4 人

■ 活動の概要

- ・ 裏千家茶道による所作の基本を学ぶ。
- ・ 簡単なお盆点てができるようにする。

■ 特徴的な活動内容

- ・ 茶道経験のない子どもばかりなので基本から学んでいる。
- ・ 茶道の所作と併せて、基本的な礼儀作法についても話をしている。
- ・ マックスクラブ発表会では、子どもたちが茶道体験者をもてなすところまでを行っている。
- ・ マックスクラブ発表会では、広く地域の子どもたちに対しても茶道体験教室を実施している。

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 茶道体験教室を実施することで、その面白さや楽しさをよりたくさんの子どもたちに体験してもらい、クラブ員を増やす工夫をしている。

■ 事業の成果

- ・ クラブ活動や体験教室を通じて、茶道に関心を持ってもらうことができた。

■ 事業実施上の課題

- ・ 動きがあまり無く、地味に見られがちなので、なかなか参加者が集まらない。

■ その他

- ・ 蒲生マックスクラブ発表会では、茶道教室を開催し活動の内容を広く地域の子どもたちにPRしている。



【活動の様子】



【マックスクラブ発表会】

■ 竜王町における土曜日の教育支援の取組 (体制構築型・「学ぶ力」学習支援型)

■ 目指す姿

町内の小学校に通う子どもたちが、様々な遊びや文化芸術の体験活動や異なった年齢の子ども同士および指導者をはじめとした地域の人々との交流を深めることにより、楽しく生きる力と豊かな創造力を培う。さらには、仲間づくりやそれぞれのクラブに応じた技能を伸ばすことを通して、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 運営委員会の設置

委員会名称	公民館子ども教室運営委員会		開催数	体制構築型 2 「学ぶ力」学習支援型 5	委員数	11
委員名簿	氏 名	所属・役職等		氏 名	所属・役職等	
	飯村 悟	元小学校長		西村 淳子	地域住民	
	松田 俊二	地域住民		石崎 邦江	元中学校教師	
	前田 郷司	地域住民		山口 龍三	元小学校長	
	関目 昭彦	地域住民		藏口 きよ江	地域住民	
	加藤 正隆	元小学校長		井堀 多美子	地域住民	
	久保井 美喜子	地域住民				

■ 本年度の活動

- ・ 5月 7日（土） 今年度の取組について ①活動内容の確認 ②親子で参加できる活動の検討
(体制構築型・「学ぶ力」学習支援型)
- ・ 7月 21日（火） 夏休み学力アップ教室打ち合わせ会議（「学ぶ力」学習支援型）
- ・ 12月 26日（月） 冬休み学力アップ教室打ち合わせ会議（「学ぶ力」学習支援型）
- ・ 3月 11日（土） 今年度の反省および次年度に向けての課題と対策の検討
キッズフェスティバル (体制構築型・「学ぶ力」学習支援型)
- ・ 3月 24日（金） 春休み学力アップ教室打ち合わせ会議（「学ぶ力」学習支援型）

■ 本年度の成果

- ・ 子どもたちが様々な遊びや文化芸術の体験活動、また、異なった年齢の子ども同士の交流を通して楽しく生きる力と豊かな創造力を培い、仲間づくりや各クラブに応じた技能を身につけることができた。
- ・ 子どもたちの学習の定着化が図れた。

■ 今後の課題

- ・ 開講しているクラブを複数受講される方もおり、開催日程の調整も非常に困難である。
- ・ スポーツ活動に参加される方も多くあり、開催日時も同じになりがちのため、どうしても参加者が限られてくる。

■ 基礎から学ぼう！

■ 竜王町	
■ 活動名	書道クラブ（「学ぶ力」学習支援型）
年間開催日数	21 日

コーディネーター数	3 人
土曜教育推進員数	11 人
子どもの平均参加人数	12 人

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、書道クラブを通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動内容

- ・硬筆・毛筆両方とも基礎から取り組むことにより、初心者でも参加できるようにしている。
- ・展覧会や町発表会、公民館等で定期的に展示することにより、自信が付き、何事にも挑戦する力を養う。



【硬筆の練習】



【毛筆の練習】

■ 実施に当たっての工夫

- ・硬筆・毛筆両方とも基礎から学習している。
- ・竜王町中から子どもたちが集まることにより、練習を通して学区を超えた子どもたち同士の交流ができる。
- ・冬場には書き初めを中心に練習している。

■ 事業の成果

- ・技術の向上が図れたとともに、異なった年齢同士の交流もできた。
- ・何度も練習し教えてもらうことにより、何事にもあきらめない力を養うことができ、また、展示会等に出展することにより、達成感や自信が付き、次へと飛躍する原動力となった。

■ 事業実施上の課題

- ・学校行事や地域行事、スポーツ行事などと重なる場合には参加者が減ってしまうため、日程調整が難しい。

■ 子どもの声

- ・はじめてから教えてもらえてよかった。
- ・長い紙に書くのがおもしろかった。
- ・字がきれいになった。
- ・展覧会で入賞できてうれしかった。

■ 保護者の声

- ・字がとてもきれいに書けるようになって良かった。
- ・公民館での展示や展覧会への出展等を重ね、何事にも真剣に取り組めるようになった。このクラブに参加させてよかったと思った。

■ スタッフの声

- ・基礎から楽しみながら学習してもらえてよかった。
- ・公民館等での定期的な展示が子どもたちの自信につながったのではないかと実感している。

■ 学習習慣を身に付けよう！

■ 竜王町	
■ 活動名	学力アップ教室 （「学ぶ力」学習支援型）
年間開催日数	20 日

コーディネーター数	3 人
土曜教育推進員数	11 人
子どもの平均参加人数	100 人

■ 活動の概要

学校との連携を深める中で、小学校の長期休業期間を利用して、「学力アップ教室」を開講し、児童の学習の定着化を図り、学力向上の一助とする。また、児童個々の興味関心と技術を伸ばすことを目的とする。

■ 特徴的な活動内容

- ・午前中は、各教室に指導員を配置し、主に長期休暇中の課題学習について学習補助を実施する。
- ・午後からは、個々の興味関心に応じて参加できる各種講座を開設している。



【自主学習室】



【英会話教室】

■ 実施に当たっての工夫

- ・町内小中学校の支援員を中心に指導員になっていただくことにより、質問等をしやすい環境を作っている。
- ・竜王町中から子どもたちが集まることにより、練習を通して学区を超えた子どもたち同士の交流ができる。

■ 事業の成果

- ・長期休業中に実施することにより、学習習慣の定着化が図れた。
- ・町内全域から小学生が集まることにより、学区や学年を超えた交流をすることができた。

■ 事業実施上の課題

- ・実施できる部屋数が限られているため、受入れに人数制限をかけている。
- ・学校行事や地域行事等と開催日が重なる場合があり、欠席者が多く出る場合がある。

■ 子どもの声

- ・復習ができて良かった。
- ・友だちがたくさんできたし、楽しく学習できた。
- ・普段学校にいる先生がいたので、質問がしやすかった。

■ 保護者の声

- ・学校が長期の休みになる期間に公民館で学習ができたので、学習習慣が付いてよかった。

■ スタッフの声

- ・学校におられる先生に来ていただいているので、子どもたちも気軽に質問できたと思う。

■ こころに響く演奏を！

■ 竜王町	
■ 活動名	和太鼓クラブ （体制構築型）
年間開催日数	23 日

コーディネーター数	3 人
土曜教育推進員数	11 人
子どもの平均参加人数	15 人

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、和太鼓を通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が発表会等により地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動内容

- ・町発表会等に参加し演奏することにより、何事にも挑戦する勇気や自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。



【練習風景】



【文月発表会】

■ 実施に当たっての工夫

- ・初心者・中級者で練習内容を分けることで、それぞれのレベルにあった練習ができ、早く上達できるようになる。
- ・和太鼓指導を生業とした指導者に指導してもらうことにより、技術の向上が図れる。
- ・日々の練習を通して子どもたち同士が教え合うことにより、異なった年齢の子どもたちの交流ができる。

■ 事業の成果

- ・太鼓指導を生業とした指導者に指導いただくことにより、無理なく技術の向上が図れたとともに、異なった年齢や学区同士の交流もできた。
- ・定期的に発表の機会を持つことで、何事にも挑戦していく力を養うことができるとともに、自信がつくようになった。

■ 事業実施上の課題

- ・和太鼓は団体での演奏であるため、出席者が少ない日等は、練習内容を変更しなければならないことがある。

■ 子どもの声

- ・みんなとタイミングを合わせるのが難しかった。
- ・友だちがたくさんできた。
- ・たくさん発表したので自信がついた。

■ 保護者の声

- ・発表会を見るたび、上達していることが実感できてよかった。
- ・家でクラブで教わったことを楽しそうに話してくれるので、受講させてよかったと思っている。

■ スタッフの声

- ・定期的に発表会に出演することにより、子どもたちに自信がつき、何事にも挑戦し、成し遂げる力を身につけることができたと思っている。

■ 生きる力を身につけよう！

■ 竜王町	
■ 活動名	チャレンジクラブ（体制構築型）
年間開催日数	9 日

コーディネーター数	3 人
土曜教育推進員数	11 人
子どもの平均参加人数	7 人

■ 活動の概要

チャレンジクラブで様々な体験活動を経験することにより、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なる年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動内容

- ・ ガラス細工体験やぶどう狩り体験、町内宿泊施設での宿泊体験、スキー体験、町内歴史ハイキング等を通して、竜王町の自然とふれあい、自然の厳しさを学び、何事にも挑戦していく力を養った。



【宿泊体験】



【カヌー体験】

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 元教師に指導してもらうことにより、技能の向上が図れる。
- ・ 日々の練習を通して、学区を超えた子どもたち同士の交流ができる。
- ・ 町内で宿泊体験や歴史ハイキング等を実施することにより、郷土愛が生まれる。

■ 事業の成果

- ・ 技術の向上が図れたとともに、異なる年齢同士の交流もできた。
- ・ 宿泊体験や歴史ハイキング、スキー体験等、様々な体験をすることにより、何事にも興味を持ち挑戦していく力を養うことができた。

■ 事業実施上の課題

- ・ 宿泊体験など事業内容によっては事前研修が必要であったり、講師以外に指導員をお願いしたりする等、準備がかなり大変である。
- ・ 学校行事や地域行事等と重ならないように日程調整することが難しい。
- ・ チャレンジクラブは野外での活動が中心であり、安全管理を十分にすることが必要であるため、内容によっては活動を制限するときもあった。

■ 子どもの声

- ・ 新しい友だちができて良かった。色々な体験ができて良かった。
- ・ 宿泊体験でロープワークや水鉄砲作りなど、いろんな体験ができてよかった。特に、カヌー体験が楽しかった。
- ・ ガラス細工体験やスキー体験など、親子で参加できる体験がたくさんあり、とても良かった。

■ 保護者の声

- ・ 家庭では体験できない事を体験させていただいて、とても感謝している。
- ・ 家族で参加できる体験教室もあり、楽しく活動できて良かった。
- ・ 体験したことを笑顔で話してくれる姿に、参加させてよかったと思っている。

■ スタッフの声

- ・ 宿泊体験やスキー体験など様々な体験を通し、自然の中での生きる知恵や勇気、お互いの意見を尊重することを学んでくれたものと思っている。

■ 家族みんなで取り組もう！

■ 竜王町	
■ 活動名	宇宙科学クラブ（体制構築型）
年間開催日数	10 日

コーディネーター数	3 人
土曜教育推進員数	11 人
子どもの平均参加人数	10 人

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、宇宙科学クラブを通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動内容

- ・天体観望や自然観察、岩石採集、親子での野鳥観察会など、毎回色々な活動内容に取り組むことにより、何事にも興味を持ち、挑戦していく力を養う。



【ペットボトルロケット作り】



【化石採集】

■ 実施に当たっての工夫

- ・季節毎に天体観望会を行い、天体の知識を深めてもらう。
- ・元教師に指導してもらうことにより、より分かりやすく教えてもらうことができる。
- ・竜王小学校・竜王西小学校の子どもたちが集まることにより、日々の活動を通して学区を超えた子どもたち同士の交流ができる。
- ・親子で参加できる日を増やすことにより、知識の向上だけでなく、他の家族同士の交流もできる。

■ 事業の成果

- ・技術の向上が図れたとともに、異なった年齢同士の交流もできた。
- ・天体観望や化石採集、自然観察や野鳥観察など様々な体験を通し、何事にも興味を持ち、挑戦していく力を養うことができた。
- ・親子で学習できる日を増やしたことにより、知識の向上はもとより他の家族との交流の場を提供できた。

■ 事業実施上の課題

- ・化石採集や自然観察、天体観望など毎回講座の内容が異なるため、欠席するとその時の講座内容が学習できない。
- ・学校行事や地域行事などが重なる場合は参加者が減ってしまうため、日程調整が難しい。

■ 子どもの声

- ・化石採集をしたとき、葉っぱの化石や貝の化石が見つかったのでとても楽しかったし、勉強になった。
- ・たくさんの友だちと仲良くなった。野鳥観察や天体観望、科学工作など、たくさんの事が体験できてとてもよかった。

■ 保護者の声

- ・天体観望会や自然観察会、野鳥観察会では親子で参加でき、楽しく学習できとても良かった。
- ・子どもが色々なことに興味を持つようになり、とてもうれしく思う。

■ スタッフの声

- ・家族で参加いただける観察会などをたくさん開催し、家族で学習していただけたことは勿論、地域での交流（家族同士の交流）も生まれ、開催して良かったと実感している。

■ いろんな技法を身につけよう！

■ 竜王町	
■ 活動名	絵画クラブ （体制構築型）
年間開催日数	11 日

コーディネーター数	3 人
土曜教育推進員数	11 人
子どもの平均参加人数	14 人

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、絵画を通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動内容

- ・メッセージボードの作成や秋の風景画、クリスマスリース作りなど、毎回異なった内容に取り組むことにより、美術・絵画に対する様々な技法を習得することができる。



【秋の写生会】



【活動風景】

■ 実施に当たっての工夫

- ・段ボールを利用しメッセージボードを作成したり、秋には秋の風景絵を作成したり、クリスマス前にはリースを作成したりするなど、楽しく学習できるよう工夫をした。
- ・元美術教師に指導してもらうことにより、無理なく自然と技術や可能性を切り拓く生きる力を身につけることができる。
- ・竜王小学校・竜王西小学校の子どもたちが集まることにより、日々の練習を通して、学区を超えた子どもたち同士の交流ができる。

■ 事業の成果

- ・元美術教師に教えていただくことにより、無理なく技術の向上が図れたとともに、異なった年齢同士の交流もできた。
- ・毎回異なった内容・技法を習い、習得することにより、何事にも挑戦していく力を養うことができた。
- ・秋の風景画やクリスマスリース作り等、季節感を取り入れることにより楽しく活動することができた。

■ 事業実施上の課題

- ・毎回異なる内容で実施するため、休んでしまうと、その時の講座内容が学習できない。
- ・学校行事や地域行事などと重なる場合は参加者が減ってしまうため、日程調整が難しい。

■ 子どもの声

- ・絵を描く技法をたくさん学べて良かった。
- ・分かりやすく色々なことが学べて良かったし、楽しかった。
- ・毎回新しいことにチャレンジできてよかった。来年度も参加したい。

■ 保護者の声

- ・クラブに参加してたくさんの絵画の技法を学び、すごく絵が上達したように思う。
- ・分かりやすく教えてもらえるので、楽しんでクラブに通っている。

■ スタッフの声

- ・クラブを通して、絵を描くことのすばらしさを学んでいただけて本当に良かった。
- ・秋の写生会に出かけたり、クリスマスリース作りをしたりと、自然との触れ合いや季節感を取り入れながら楽しく学習してもらえてとても良かった。

■ みんなで協力して完成させよう！

■ 竜王町	
■ 活動名	
料理クラブ （体制構築型）	
年間開催日数	9 日

コーディネーター数	3 人
土曜教育推進員数	11 人
子どもの平均参加人数	10 人

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、料理クラブを通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動内容

- ・ 家族参加が可能で、初心者からでも作れるように簡単なレシピを考えている。
- ・ 栄養士さんがレシピを作成していただいている。
- ・ 郷土料理を一品レシピに加えている。



【調 理】



【食 事】

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 家族で参加できることによって、地域間（家族間）の交流もできる。
- ・ 班単位で協力して料理を完成させることにより、技術の向上はもとより、班での自分の役割をしっかりと把握し、完成させる責任感を養うことができる。
- ・ 郷土料理（伝統料理）を1品加えることにより、郷土愛が生まれ、また、おじいさん、おばあさんから料理を教えてもらえる。

■ 事業の成果

- ・ 役割分担をし、協力して完成させる喜びを実感することができた。
- ・ 異なった年齢同士や家族間での交流もできた。
- ・ 伝統料理を覚えることができた。

■ 事業実施上の課題

- ・ 学校行事や地域行事などと重なる場合には参加者が減ってしまうため、日程調整が難しい。
- ・ 安価で栄養のバランスが整っており、郷土料理も1品入っているレシピを毎回考えていただくのが大変である。
- ・ 食材をそろえることがとても大変である。

■ 子どもの声

- ・ 料理ができるようになった。
- ・ たくさんの料理が作れるようになった。

■ 保護者の声

- ・ 今まで作ったことがなかった郷土料理を作れるようになって良かった。
- ・ 季節毎に季節の食材を使った料理を親子で教えてもらえたのがとても良かった。

■ スタッフの声

- ・ 郷土料理を1品加えたことにより、郷土愛が生まれ、また、おじいさんやおばあさんから教えてもらいながら一緒に料理ができるようになればと願っている。

■ 何事にも挑戦しよう！

■ 竜王町	
■ 活動名	吹奏楽教室（体制構築型）
年間開催日数	40 日

コーディネーター数	3 人
土曜教育推進員数	11 人
子どもの平均参加人数	15 人

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、吹奏楽を通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が発表会等により地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動内容

- ・ 県の大会や町イベント等に積極的に参加することにより、自信が付き、何事にも挑戦し自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。



【竜王町文化きらめきフェア】



【滋賀県ジュニアミュージックフェスティバル】

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 毎週土曜日の夜にすることにより、受講生の地域行事などと比較的重なることなく開講することができる。
- ・ 指導者を3名にすることにより、分からないところはじっくりと教えてもらうことができる。また、元教師に指導してもらうことにより、分かりやすく丁寧に指導してもらうことができる。
- ・ 初心者・経験者と分けて練習することにより、それぞれのレベルにあった練習ができる。

■ 事業の成果

- ・ 団体行動の厳しさや何事にも挑戦する心を学ぶことができた。
- ・ 初心者・経験者を分けて練習を重ねることにより、それぞれが早く上達できた。
- ・ 県の大会や町イベントに出演し、演奏を重ねることによって、自らの可能性を切り拓く力を養うことができた。

■ 事業実施上の課題

- ・ 全員で曲を演奏するため、欠席者があると練習に支障が出ることがある。
- ・ 練習の時間帯が夜間であるため、防犯対策を十分に講じる必要がある。

■ 子どもの声

- ・ 音が出るようになった。
- ・ 友だちがたくさんできた。たくさんの曲が演奏できるようになった。
- ・ 発表する場がたくさんあるので、自信が持てるようになった。

■ 保護者の声

- ・ 家でも練習している姿をみて、とてもうれしく思った。
- ・ 年数回発表の場があり、発表を重ねるたび上達していることが実感できた。

■ スタッフの声

- ・ たくさん練習をし、多くの発表会を経験することで、努力による曲の上達を実感することができたとし、演奏後の子どもたち自身も達成感で満たされているように思う。この経験が、将来壁にぶつかった時に乗り切るための糧となることを願っている。

■ 多賀町における土曜日の教育支援の取組 （「学ぶ力」学習支援型）

■ 目指す姿

本町が目指す将来像を実現するために、「まちづくり」は「ひとづくり」であるとの基本認識に立ち、「子育て教育熱心なまち」の具現化を進めている。今日的課題である少子高齢化・人口減少は、本町においては「住み続けたい町」「移り住みたい町」とするため、具体的な方策を早急に講じなければならない課題となっている。現在の住民が安心して住み続けられる地域にするとともに、町外よりの転入や定住化を促進するための重要施策として、教育は本町の活性化へ大きな役割を担うものにとらえている。

そこで「安心して子育てができる多賀町」とするために、保護者にとっては「通わせたい園・学校」、子どもにとっては「通いたい園・学校」づくりを進めることが肝要である。

■ 本年度の活動

中学生を対象とする土曜講座への参加者希望者は年々増加し、講師を増やすなどの対応を行い、可能な限り希望者全員を受け入れるようにしてきた。地域教育力推進協議会でも本町の特筆すべき取組のひとつであり、今後の継続を望むとの意見をいただいている。

中学生を対象とする土曜講座に加えて、本年度は大滝地区活性化の取組のひとつとして、大滝小学校を会場に木・金曜日に「学びっこタイム」を実施している。ここでは小学校の1～3年生の児童29名を対象に、木曜日は学校からの家庭学習の課題や遊びの時間を、金曜日はコンピュータを使った学習と遊びの時間を設定している。遊びの時間には学校支援ボランティア10名の方の力添えをいただいている。この「学びっこタイム」は、「学習の基礎・基本の確かな力を定着させる」「地域の方とのふれあい」「全校集団下校による児童の安全確保」をねらいとしている。



【土曜講座(サタスタ)】

■ 本年度の成果

地域活性化を協議する組織は、教育委員会事務局だけでなく各課を横断した組織となっており、課題に応じた施策を講じていくという取り組み方は、実現化、実効性が大いに期待できる新たな形である。上述の取組も、その方策として検討を行い、町行政全体の共通認識の上に立った取組となっている。



【学びっこタイムでの折り紙】

■ 今後の課題

地域教育力推進協議会は、町内の各種団体とともに町内の企業の代表者も参加する形をとっている。地域の各団体は、子どもたちの健全育成の立場から以前より校園の教育活動に様々な形で協力をいただいている。今後は本協議会の構成員として企業の代表者の方もおられることから、子どもに直接関わるような力添えをいただけると、さらに意義ある活動が展開できるのではないかと考える。

【多賀町地域教育力推進協議会について】

○委員数：26名 ○構成内訳：各種団体13団体、企業等5企業、学校関係3校、行政5機関

■ みんなのやる気を応援します！ 土曜講座（サタスタ）

■ 多賀町	
■ 活動名	土曜講座（サタスタ）（「学ぶ力」学習支援型）
年間開催日数	20 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	4 人
子どもの平均参加人数	50 人

■ 活動の概要

目 的：・「学ぶことの楽しさ」「分かることの喜び」「確かな学力」の向上を図る。
・学習への自信をつけ、目標に向かって頑張る気持ちを育てる。

開 講 日：平成 28 年 9 月 3 日（土）～平成 29 年 3 月の間の土曜日に 20 回

時 間：午前 9 時～12 時

会 場：あけぼのパーク多賀

対 象：多賀中学校生徒 1～3 年

定 員：10～30 名（会場によって異なる）

費 用：4,050 円（教材費として）

参加者数：62 名



【土曜講座（サタスタ）】

■ 特徴的な活動内容

民間の学習塾と提携し、塾講師の指導で国語・数学・英語の 3 教科の学習を学年別に復習を中心に 50 分間ずつ行う。

■ 実施に当たっての工夫

- ・昨年度のアンケートから英語のリスニングを行って欲しいとの声があり、本年度、講座の中で実施するなど、前年度の意見を元に、改善を行うようにしてきた。
- ・多賀中学校の年間指導計画に基づき、講座を実施した。そのため定期テスト前の振り返り学習を充実させるようにした。
- ・計画・調整、実施については、教育委員会が窓口となって行うことで、中学校教職員へ負担をかけないように配慮した。
- ・受講生がより出席しやすいように、講座実施期日については、年度当初に中学校や塾と日程調整を行い決定した。
- ・より効果あるものにするため、講座終了後には家庭学習の課題を FAX にて、受講生の家庭へ送信している。

■ 事業の成果

本年度、多賀中学校の全生徒の 1/4 を超える 62 名が土曜講座へ参加した。町内には中学生を対象とする塾がなく、この土曜講座が貴重な学習の機会となっている。また、町予算と県・国の事業補助により、保護者負担は教材費（4,050 円）のみとなっていることも参加者が多くなっていることの要因のひとつである。

【生徒の声より抜粋】

- ・先生はとても優しく授業も分かりやすかったです。学校でも予習ができていたので、前より内容が頭に入るようになりました。
- ・私はサタスタに通ってから苦手だった英語を克服することができました。私は、塾に通っていないので、周りの人たちより勉強が明らかに少ないと思います。でもサタスタで 3 時間ではありますが、学校以外で勉強ができたことは、自分にとってすごくプラスになりました。授業も質問しやすい雰囲気、分からないところは細かく、分かるまで教えてくださいましたので、確実に自分の知識とすることができました。約半年の期間でしたが、参加することができて良かったです。

【保護者の声より抜粋】

- ・色々とうりやうございました。多賀町の誇るべき子育て支援政策のひとつだと思います。
- ・兄の時から始まったサタスタはとても良かったので、このように引き続き開講していただけるのはとてもありがたいことだと感じています。我が家では塾に通わせていません。なので、こういう場が町内でしかも格安で受講でき、また、友達と一緒に勉強にも励め、受験情報が得られることは、とても助かりました。家庭の事情で塾に通わせるのが困難な家庭はたくさんあります。このサタスタがこれからも子育て中の家庭にとって応援となり、支えとなり、これからも開講されることを期待しています。

■ 事業実施上の課題

受講希望者が年々増え、会場のスペースの関係から期日前に申込を締め切らざるを得なかった。講師の数を増やす予算措置を執ったが、受講生の多い学年では、学習に遅れがちな生徒に対して個別に指導することが難しい状況も出ている。そのため、町内在住の学生や地域の方にボランティアとして力添えを得るなどの手立ても必要と考える。受講希望者が増える一方、次年度以降、本事業への補助が縮小され、町の負担が増えることは事業継続に支障をきたす懸念が生じている。

